

Clavinova®

CVP-609 / CVP-605
取扱説明書

このたびは、ヤマハクラビノーバをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
クラビノーバの優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

この楽器のお取り扱いについては、ご使用前に必ず4～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。

組み立て説明については巻末をご参照ください。

目次

取扱説明書について.....	3	テキストファイルを表示する.....	59
付属品(お確かめください).....	3	ガイド機能を使って片手ずつ練習する.....	60
安全上のご注意.....	4	くり返し再生を使って練習する.....	61
ご使用上のお願いとお知らせ.....	8	音の高さを半音単位で調整する(ピッチシフト).....	62
この楽器の対応フォーマット.....	9	再生速度を調節する(タイムストレッチ).....	62
タッチで進もう! CVPの世界	10	ボーカルパートを消音する(ボーカルキャンセル).....	62
各部の名称	12	演奏を録音する	63
ご使用前の準備	14	基本的な録音方法(MIDI録音/オーディオ録音).....	63
電源を入れる.....	14	パート(チャンネル)ごとに録音する(MIDI録音).....	65
楽器の基本設定をする.....	16	MIDIソングをオーディオソングに変換する.....	67
譜面立てを使う.....	17	マイクを使って歌声にハーモニーを付ける	68
ヘッドフォンを使う.....	17	マイクを接続する.....	68
画面の構成	18	歌声にハーモニーを付ける(ボーカルハーモニー).....	69
基本操作	20	弾きたい曲に合ったパネル設定を呼び出す (ミュージックファインダー)	71
画面の見かた.....	20	レコード(パネル設定)を選ぶ.....	72
表示中の画面を閉じる.....	22	レコード(パネル設定)を検索する.....	73
画面の操作方法.....	23	ソングやスタイルをレコードとして登録する.....	74
よく使う機能をホーム画面から呼び出せるようにする.....	25	パネル設定を登録する (レジストレーションメモリー)	75
アサインボタンに機能を割り当てる.....	26	パネル設定を登録する.....	75
ファイルを管理する.....	27	登録したパネル設定をファイルとして保存する.....	76
文字を入力する.....	32	登録したパネル設定を呼び出す.....	77
ペダルを使う.....	33	音量バランスや音色などを調節する(ミキサー)	78
メトロノームを使う.....	34	ミキサーの基本操作.....	78
テンポを調節する.....	34	スタイルやソングをチャンネルごとにオン/オフする.....	80
鍵盤のタッチ感度を変える.....	35	他の機器と接続して演奏する	81
音の高さを半音単位で調整する(トランスポーズ).....	36	端子パネル.....	81
音量バランスを調節する.....	36	外部オーディオ機器と接続する	
設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化).....	37	([AUX IN]端子、AUX OUT [L/L+R]/[R]端子).....	82
データのバックアップ.....	37	楽器本体の画面をテレビなどの外部モニターに映し出す	
ピアノ演奏を楽しむ(ピアノルーム)	38	([VIDEO OUT]端子、[RGB OUT]端子).....	83
ピアノ演奏をする.....	38	フットスイッチやフットコントローラーを接続する	
ピアノルームの設定を変える.....	38	([AUX PEDAL]端子).....	84
いろいろな楽器音で演奏する(ボイス)	40	マイクやギターをつないで使う([MIC./LINE IN]端子).....	84
内蔵のボイスを選んで弾く.....	40	USB機器を接続する([USB TO DEVICE]端子).....	85
スプリットポイントを設定する.....	42	iPhone/iPadと接続する([USB TO DEVICE]端子、	
スーパーアーティキュレーションボイスを使う.....	43	[USB TO HOST]端子、MIDI端子).....	86
オリジナルのオルガンボイスを作る(オルガンフルート).....	44	コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子).....	87
リズムや自動伴奏に合わせて演奏する(スタイル)	45	外部MIDI機器と接続する(MIDI端子).....	87
スタイルに合わせて演奏する.....	45	付録	88
スタイル再生を操作する.....	47	メニュー画面機能一覧.....	88
選んだスタイルに合うパネル設定を呼び出す		CVP-609の組み立て方.....	90
(ワンタッチセッティング=OTS).....	49	CVP-605の組み立て方.....	93
選んだスタイルで演奏できる曲を検索する.....	50	困ったときは.....	95
演奏に合うスタイルを呼び出す(スタイルレコメンダー).....	51	仕様.....	98
コードの認識方法(フィンガリングタイプ)を変える.....	52	索引.....	101
曲(ソング)を再生して練習する	54	保証とアフターサービス.....	103
ソングを再生する.....	54		
譜面を表示する.....	57		
歌詞を表示する.....	58		

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

クラビノーバの基本操作について説明しています。



データリスト

ボイス名、スタイル名などのリストが掲載されています。

電子マニュアル



リファレンスマニュアル

メニュー画面(22ページ)から操作できる機能や設定について詳しく説明しています。



iPhone/iPad接続マニュアル

クラビノーバをiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



コンピューターとつなぐ

クラビノーバをコンピューターと接続する方法を説明しています。



MIDIリファレンス

MIDIデータフォーマットやMIDIインプリメンテーションチャートが掲載されています。

上記マニュアルは、ヤマハマニュアルライブラリーのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「CVP-609」など)を入力して「検索」をクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/>

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、特に説明のない限り、CVP-609のものを使用しています。また、すべて操作説明のためのものであり、実際の仕様とは異なる場合があります。
- iPhoneまたはiPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)
- データリスト
- 保証書
- ユーザー登録のご案内
ユーザー登録の際に必要なプロダクトIDが記載されています。
- 電源コード
- ヘッドフォン
- イス(高さ調節付き)
ハンドルを時計回りに回すと高くなります。(ご購入時には、ハンドルは固めに締められています。)
- USB無線LANアダプター

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

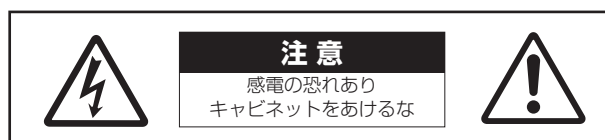
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
--	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	--

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。

ほかの電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

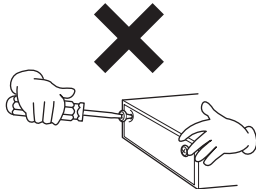
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりません。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげをしったりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がかげをしったりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などはさまないように注意する。

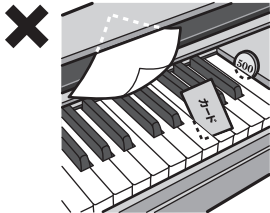
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方々がかげがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたみを保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

[o](スタンバイ / オン) スイッチを切った状態 (電源ランプが消えている) でも微電流が流れています。[o](スタンバイ / オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

ご使用上のお願いとお知らせ

注記（ご使用上の注意）

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、iPhone/iPadの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります（5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています）。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- つや出し仕上げモデルの場合、本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。

本体やイスのお手入れ

クラビノーバをいつまでもきれいに保つため、下記のお手入れを定期的に行なうことをおすすめします。

- 手入れするときは、乾いたガーゼやネルのような柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- つや出し仕上げモデルの場合、本体のほこりや汚れは、乾いたガーゼやネルのような柔らかい布で軽くふき取ってください。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。つやを保つためには、ユニコンをピアノクロスに含ませてムラなく拭き、別の布で伸ばすように磨き上げます。ユニコンは楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。
- 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

データの保存に関する注意



- 編集したソング/スタイル/ボイスやMIDI設定などは、保存前に電源を切ると消えてしまいます。オートパワーオフ機能(15ページ)により電源が切れた場合も同様です。保存しておきたいデータは、本体のユーザーメモリーまたはUSBフラッシュメモリーに保存しておきましょう(27ページ)。また、楽器に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリーに保存してください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリーにバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、予告なくファームウェアをアップデートすることがあります。製品の機能を十分に生かしてお楽しみいただくため、最新バージョンにアップデートすることをおすすめします。最新のファームウェアは、下記ウェブサイトからダウンロードすることができます。
<http://download.yamaha.com/jp/>
- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
 CVP-605: T-1460091、CVP-609: T-1460092
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson. 
- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An Independent license for such use is required. For details, please visit <http://mp3licensing.com>.
- 日本語変換はオムロンソフトウェア(株)のモバイルWnnを使用しています。
"Mobile Wnn" © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.

調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

この楽器の対応フォーマット

GMシステムレベル2

代表的な音色配列フォーマットの1つである「GMシステムレベル1*」を、さらに表現力を高める機能にまで拡張したフォーマットです。

*多くのMIDI機器がGMシステムレベル1に対応しており、市販のミュージックデータの多くがGMシステムレベル1で作られています。

XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。クラビノーバのXG音色グループ内の音色で演奏を録音すると、録音されたデータの音色配列は「XG」になります。

GS

ローランド株式会社の音源フォーマットです。ヤマハのXGフォーマットと同様、GMシステムレベル1の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。

XF

SMF(スタンダードMIDIファイル)をより拡張し、歌詞表示などを可能にしたヤマハ独自のシーケンスフォーマットです。

スタイルファイルフォーマットGE (ギターエディション)

「スタイルファイルフォーマット(SFF)」とは、ヤマハの自動伴奏機能のノウハウを集大成した、伴奏スタイルに関するフォーマットです。SFF GEは、ギターの表現力をさらに高めた、SFFの拡張フォーマットです。

タッチで進もう！ CVPの世界

CVPでは、直感的に操作できるタッチパネルを搭載。大きくてわかりやすい画面をタッチすることにより、さまざまな機能を簡単に操作できます。

まずは、本格的なピアノを楽しもう！

表現力あふれるピアノ音源「RGE音源」、そして、グランドピアノ独特の奏法も表現できる「ナチュラルウッド(NW)鍵盤」(CVP-609)/「グレードハンマー3(GH3)鍵盤」(CVP-605)を搭載。本格的な音とタッチにより、グランドピアノを弾いているような感覚で演奏できます。また、ピアノ演奏用の設定(ピアノルーム)が、ボタンひとつでいつでも呼び出せます。ピアノルームでは、ピアノの種類や部屋を選択可能。お好みの環境で本格的なピアノ演奏をお楽しみいただけます。



▶▶▶ 38ページ

ピアノ以外の音色で演奏しよう！

ピアノ以外にも、オルガンやギター、サックスなどのいろいろな楽器音(ボイス)で演奏することができます。さらに、「スーパーアーティキュレーションボイス」なら、それぞれの楽器特有の奏法から生まれる表情までリアルに再現。ギターと指の摩擦音やサックスのブレス音、滑らかなレガートなど、演奏に細かい表情を付けることができます。



▶▶▶ 40ページ

豪華なバックイングと一緒に演奏しよう！

「スタイル」と呼ばれる自動伴奏機能を使うと、左手でコードを押さえるだけで、自分専用のバックバンドが伴奏を付けてくれます。イントロやエンディングを付けたり、フィルを入れたり、リアルタイムのアレンジも可能です。たくさんあるスタイルからどれを選べばいいかわからないという時は、「スタイルレコメnder」を活用。簡単なリズムを弾くだけで、クラブノーバがおすすめのスタイルを教えてください。

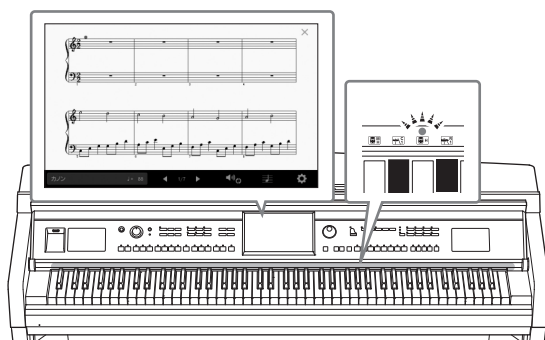


▶▶▶ 45ページ

譜面とガイド機能で楽しくレッスン！

レッスンに役立つ、譜面表示機能や鍵盤ガイドランプも搭載されています。鍵盤ガイドランプが、次に弾く鍵盤の位置やタイミングを教えてくれるので、楽譜が苦手な方やピアノが初めての方でも安心です。

▶▶▶ 60ページ



タッチで進もう！CVPの世界

カラオケも弾き語りも！

クラビノーバに歌詞を表示させて、マイクをつなげば、家でも本格的なカラオケや弾き語りが楽しめます。オーディオ曲のボーカルパートを消すことができるので、オリジナルの曲をバックに歌ったり演奏したりできます。

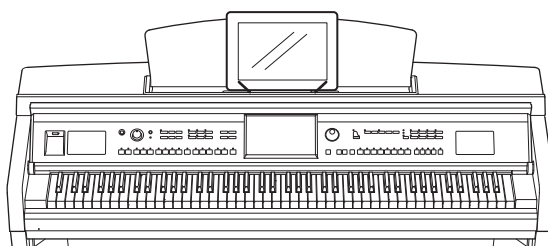
▶▶▶ 58、68ページ



iPhone/iPadと接続してもっと便利に！

iPhoneやiPadのアプリケーションとクラビノーバを一緒に使えば、音楽データの管理がより簡単にできたり、さまざまな楽しい機能が使えたりと、可能性が広がります。

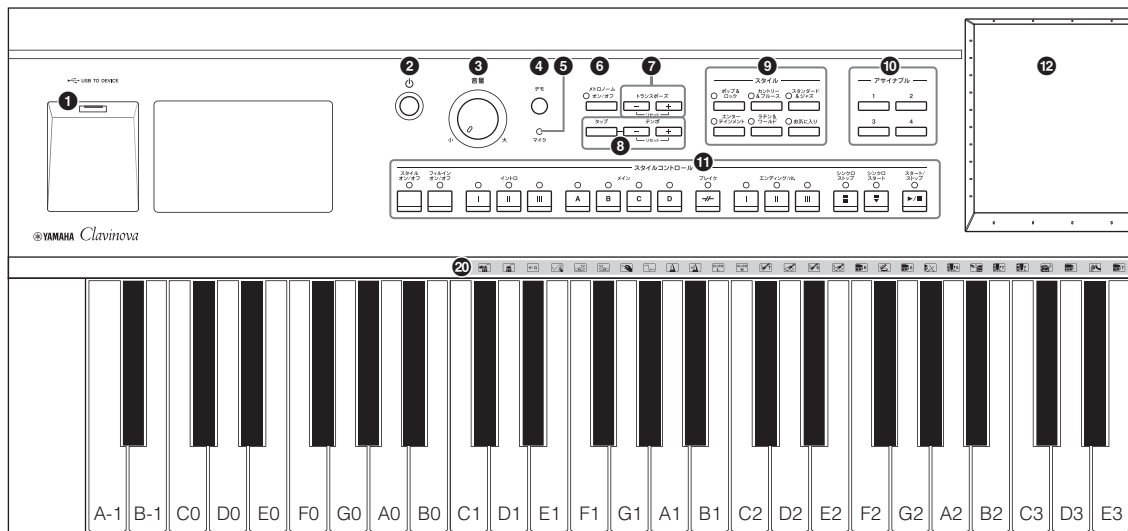
▶▶▶ 86ページ



デモを見れば、クラビノーバの魅力をもっと知ることができます。[デモ]ボタンを押して、デモを見てみましょう！

デモ画面では、画面上的表示をタッチすることにより、デモ曲を聞いたり、クラビノーバの歴史や機能について簡単に知ったりできます。

各部の名称



- ① [USB TO DEVICE]端子(85ページ)**
USBフラッシュメモリーや付属のUSB無線LANアダプターを接続します。
- ② [⏻](スタンバイ/オン)スイッチ(14ページ)**
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ③ [音量]ダイヤル(14ページ)**
楽器全体の音量を調節します。
- ④ [デモ]ボタン(11ページ)**
デモ画面を表示します。
- ⑤ [マイク]ランプ(68ページ)**
マイク使用時の入力レベルを確認します。
- ⑥ [メトロノームオン/オフ]ボタン(34ページ)**
メトロノームを鳴らします。
- ⑦ トランスポーズボタン(36ページ)**
半音単位で移調します。
- ⑧ [タップ]/テンポ[-]/[+]ボタン(34ページ)**
MIDIソングやスタイル、メトロノームのテンポを調節します。
- ⑨ スタイルボタン(45ページ)**
スタイルカテゴリーを選びます。
- ⑩ アサイナブルボタン(26ページ)**
よく使う機能へのショートカットを割り当てます。
- ⑪ スタイルコントロールボタン(47ページ)**
スタイル再生をコントロールします。
- ⑫ 画面(タッチパネル)(23ページ)**
タッチして表示内容を操作します。
- ⑬ データダイヤル(24ページ)**
データを選んだり、設定値を変更したりします。
- ⑭ [ホーム]ボタン(24ページ)**
ホーム画面(電源を入れたときの画面)を表示します。
- ⑮ [ピアノルーム]ボタン(38ページ)**
ピアノ演奏専用の設定を呼び出します。
- ⑯ ソングコントロールボタン(56ページ)**
ソング再生をコントロールします。
- ⑰ ボイスボタン(40ページ)**
鍵盤パートやボイスカテゴリーを選びます。
- ⑱ レジストレーションメモリーボタン(75ページ)**
パネル設定を保存したり、呼び出したりします。
- ⑲ ワンタッチセッティング(OTS)ボタン(49ページ)**
選んだスタイルに最適なパネル設定を呼び出します。
- ⑳ ドラムキットアイコン(41ページ)**
「スタンダードキット1」ボイスを選んだときに、各鍵盤に割り当てられる打楽器のイラストです。

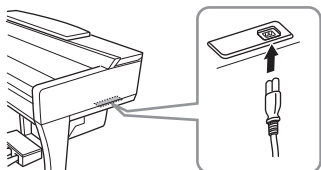
ご使用前の準備

電源を入れる

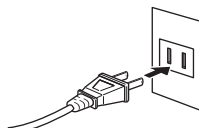
1 電源コードを接続します。

最初に本体側のプラグを差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。

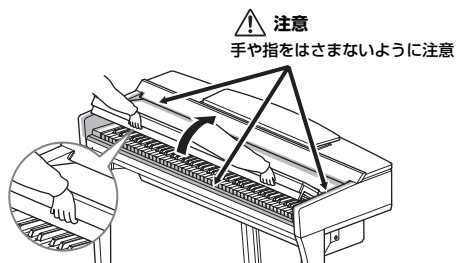
1-1



1-2

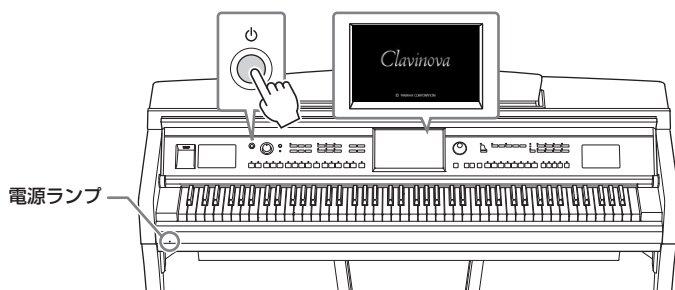


2 本体正面のくぼみに両手を掛け、キーカバーを持ち上げて開きます。



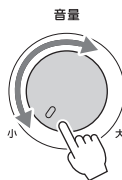
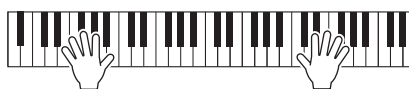
3 本体パネル左側にある[⏻] (スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

パネル中央の画面に表示が現れます。また、本体前面左の電源ランプが点灯します。



4 鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾いて音を出しながら、[音量]ダイヤルで音量を調節してください。



注意

- キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- キーカバーを開けると、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

5 使い終わったら、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を切ります。

画面の表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

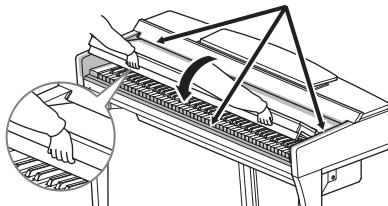
録音中や編集、メッセージ表示中は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押しても電源が切れません。強制終了したい場合は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを3秒以上押し続けます。

オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では30分ですが、変更することもできます(16ページ)。

6 キーカバーを両手で持って、静かに閉めます。

⚠ 注意
手や指をはさまないように注意



⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

注記

- 録音中や編集集中に強制終了すると、データが失われたり、楽器や外部機器が故障したりする場合があります。
- オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。ご注意ください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手で本体の電源を切ってください。

楽器の基本設定をする

必要に応じて、画面に表示される言語などを設定します。

1 設定画面を表示させます。

まず、ホーム画面(電源を入れたときの画面)の右下にある[メニュー]アイコンをタッチしてメニュー画面を表示させます。次に、必要に応じて[▶]をタッチして2ページめを表示させ、[ユーティリティ]アイコンをタッチします。表示された画面で、[システム]をタッチします。



2 画面をタッチして、必要な設定をします。

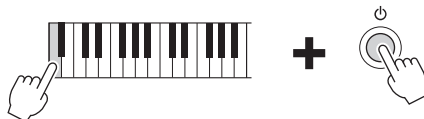
バージョン	楽器のバージョンを示しています。 ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、予告なくファームウェアをアップデートすることがあります。製品の機能を十分に生かしてお楽しみいただくため、最新バージョンにアップデートすることをおすすめします。最新のファームウェアは、下記ウェブサイトからダウンロードすることができます。 http://download.yamaha.com/jp/
著作権表示	ここをタッチすると、著作権情報が表示されます。
言語	画面表示の言語を指定します。 ここをタッチして言語のリストを表示させ、リストから選びます。
オーナー名	オープニング画面(電源を入れたときに表示される画面)に表示する、オーナー名(所有者名)を入力できます。 ここをタッチして文字入力画面を表示させ、名前を入力します(32ページ)。
オートパワーオフ	オートパワーオフ機能(15ページ)により、電源が切れるまでの時間を設定します。 ここをタッチして設定値のリストを表示させ、リストから選びます。 自動的に電源を切りたくない場合は、「無効」を選びます。

注記

- オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。ご注意ください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手で本体の電源を切ってください。

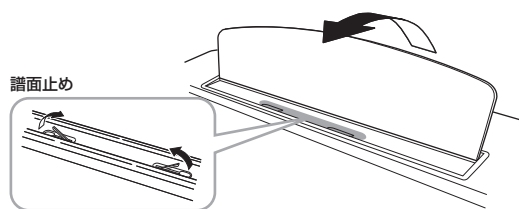
オートパワーオフの簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除されます。

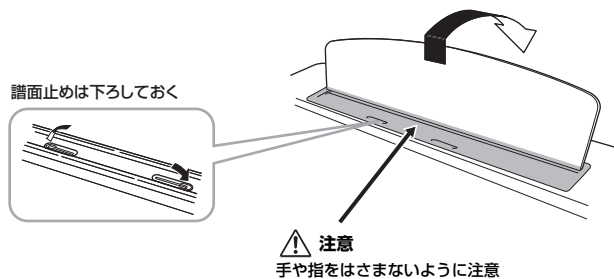


譜面立てを使う

譜面立てを手前に起こします(一定の位置で止まります)。譜面止めを使うと、譜面立てに置いた楽譜のページを固定できます。

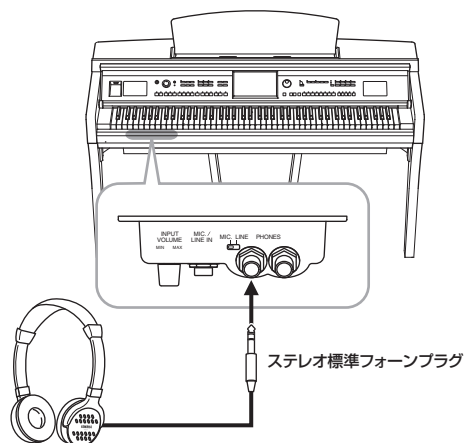


譜面立てを倒すときは、中央部を持ち上げてから、回転させるようにゆっくり戻します。



ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンは、[PHONES]端子に接続します。端子は2つあるので、ヘッドフォンを2本接続できます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子を使っても構いません。



ヘッドフォンハンガーを使う

本体には、取り付け式のヘッドフォンハンガーが同梱されています。ヘッドフォンハンガーを取り付けると、本体にヘッドフォンを掛けられます。取り付け方は、巻末の組み立て方をご覧ください。

注意

譜面立てを立てるとき/倒すときは、途中で手を離さないでください。

注意

譜面立てを倒す前に、譜面止めを下ろしてください。譜面立てと譜面止めの間に指をはさみ、お客様がけがをされるおそれがあります。

注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

注記

ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。

画面の構成

この楽器では、電源を入れたときに表示される「ホーム画面」を基本画面とし、そこから「ファイル選択画面」や「メニュー画面」を呼び出すことにより、さまざまな機能を使ったり、楽器の設定を行ったりできます。画面の操作について詳しくは、23ページをご覧ください。

ファイル選択画面

スタイル、ボイス、またはソング名をタッチすると、それぞれの選択画面が表示されます。

スタイル選択画面



スタイル表示を広げると、スタイル再生の操作に使うボタンが表示されます。



ホーム画面

すべての基本となる画面です。

メニュー画面

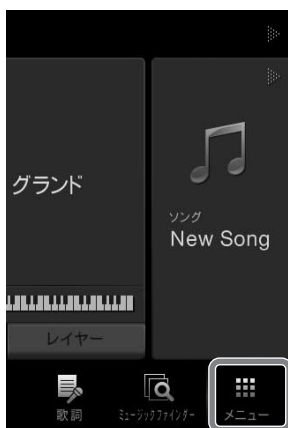
各アイコンをタッチすることにより、譜面表示や音量バランスの調整といったさまざまな機能や、詳細設定の画面を呼び出せます。



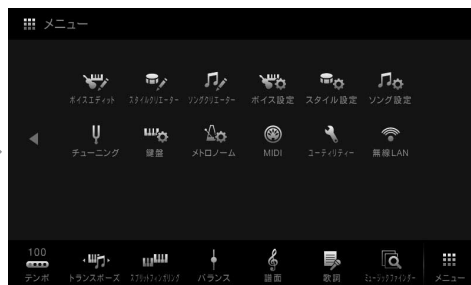
ボイス選択画面



ソング選択画面



ソング表示を広げると、ソング再生の操作に使うボタンが表示されます。



基本操作

画面の見かた

ここでは、よく使う3つの画面(ホーム画面、ファイル選択画面、メニュー画面)について説明します。ホーム画面は、この楽器の状態を表示する基本画面です。ファイル選択画面とメニュー画面は、ホーム画面から簡単に呼び出せます。

ホーム画面

電源を入れたときや[ホーム]ボタンを押したときに表示される画面です。ホーム画面を見れば、今日のボイスを選んでいるか、どのスタイルを選んでいるかなど、パネルの設定状態がひとめでわかります。演奏中に表示させておくと便利です。



1 ボイスエリア

各鍵盤パート(メイン、レフト、レイヤー)で選ばれているボイスと、そのオン/オフの状態が表示されます(40ページ)。ボイス名をタッチすると、ボイス選択画面が開きます。

2 スタイルエリア

選ばれているスタイルが表示されます(45ページ)。スタイル名をタッチすると、スタイル選択画面が開きます。

左上にある[◀]をタッチすると、エリアが拡張され、スタイル再生の操作画面が現れます。元の表示に戻すには、ボイスエリアの右上に表示される[▶]をタッチします。

3 ソングエリア

選ばれているソングが表示されます(54ページ)。ソング名をタッチすると、ソング選択画面が開きます。

右上にある[▶]をタッチすると、エリアが拡張され、ソング再生の操作画面が現れます。元の表示に戻すには、ボイスエリアの左上に表示される[◀]をタッチします。

4 レジストレーションエリア

選ばれているレジストレーションメモリーのバンク名やレジスト名、レジストレーションシーケンスがオンの場合はレジストレーションメモリーの順番が表示されます(75ページ)。このエリアをタッチすると、レジストレーションメモリーのバンク選択画面が表示されます。

[▶]または[◀]をタッチして、表示を出したり隠したりできます。

5 メニューエリア

この楽器に搭載されているさまざまな機能の一部をワンタッチで呼び出せるよう、ショートカットとして並べたエリアです。各ショートカットをタッチすることで、該当機能の画面を呼び出せます。また、右端にある[メニュー]アイコンをタッチすると、このエリアにショートカットとして登録(25ページ)できる機能の一覧(メニュー画面)が表示されます。

NOTE

ボイスエリア、スタイルエリア、ソングエリア上を、左から右へスライドすると、スタイルエリアを拡張表示できます。右から左へスライドすると、ソングエリアを拡張表示できます。

NOTE

レジストレーションエリアを左右にスライドさせることで、表示を出したり隠したりすることもできます。

ファイル選択画面

ファイル選択画面は、ボイスやスタイル、ソングなど、楽器内のさまざまなデータ(ファイル)を選ぶための画面です。ホーム画面で、ボイス名やスタイル名、ソング名をタッチしたとき、ボイスボタンやスタイルボタンを押したときなどに表示されます。



1 カテゴリー

データを種類(カテゴリー)ごとに分類したタブです。下記以外のタブ(プリセットタブ)を選ぶと、本体にあらかじめ内蔵されているデータ(プリセットデータ)が表示されます。



(お気に入りタブ)

お気に入りとして登録されたボイスまたはスタイルが表示されます(30ページ)。このタブは、ボイス選択画面またはスタイル選択画面だけに表示されます。



(ユーザータブ)

自分で録音したり編集したりしたデータを保存できます。楽器本体にあるデータは「ユーザー」(ユーザーメモリー)に、USBフラッシュメモリー内のデータは「USB」に表示されます。本書では、ユーザータブに入っているデータをまとめて、ユーザーデータと呼びます。

2 サブカテゴリー / フォルダー (パス)

- プリセットタブの場合は、さらに細かく分類された種類が表示されます。たとえば、ボイス選択画面で「ピアノ」タブを選ぶと、グランドピアノやエレクトリックピアノなど、さまざまな種類のピアノが表示されます。
- お気に入りタブの場合、ここは表示されません。
- ユーザータブの場合は、下図のように、フォルダー構成に応じて、現在表示されているフォルダー(パス)が表示されます。



3 データ(ファイル)一覧

選ぶことのできるファイルが表示されます。複数のページがある場合は、一覧の右側にある[▲]/[▼]をタッチすると、ページを移動できます。

4 操作アイコン

ファイル選択画面で操作できる機能(保存、コピー、削除など)のアイコンです。表示されるアイコンは、画面によって異なります。詳しくは、27~31ページや、各機能のファイル選択画面の説明をご覧ください。

NOTE

リスト上を下から上へ、または上から下へスライドすることにより、ページを移動することもできます。

メニュー画面

メニュー画面は、楽器を便利に使うためのさまざまな機能への入り口です。ホーム画面で、画面右下にある[メニュー]アイコンをタッチしたときに表示されます。



1 機能一覧

楽器を便利に使うための機能のアイコンが表示されています。各機能アイコンをタッチすると、機能画面が表示されます。2ページで構成されていて、▶または◀をタッチすると、ページが切り替わります。各機能について詳しくは、巻末の「メニュー画面機能一覧」(88ページ)や、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

2 ショートカット

機能一覧から、よく使う機能を選んでここにショートカットとして登録します(25ページ)。これにより、ホーム画面からすぐに呼び出せるようになります。

メニュー画面での操作手順の表記方法

本書では、各種の画面を表示させるための操作手順が「→」で表記されています。

<例>

表記: [メニュー] → [ユーティリティ] → [システム] → [言語]

操作手順:

1. メニュー画面で[ユーティリティ]にタッチします。
2. [システム]にタッチします。
3. [言語]をタッチします。

NOTE

メニュー画面は、ホーム画面上をメニューエリアから上に向かってスライドすることにより表示させることもできます。メニュー画面上を上から下へスライドすると、ホーム画面に戻ります。

NOTE

画面上を左から右に、または右から左にスライドすることで、ページを切り替えることもできます。

表示中の画面を閉じる

表示中の画面を閉じるには、画面右上の[×]、または右下の[閉じる]をタッチします。操作中にメッセージが表示された場合は、[はい]、[いいえ]などメッセージに呼応する項目をタッチすると、メッセージが閉じます。すぐにホーム画面に戻りたい場合は、[ホーム]ボタンを押します。

画面の操作方法

この楽器の画面は、タッチパネルです。画面上の設定/選択したい項目に、直接指で触れて操作できます。また、データダイアルや[ホーム]ボタンも画面の操作に使います。



画面(タッチパネル)をタッチする

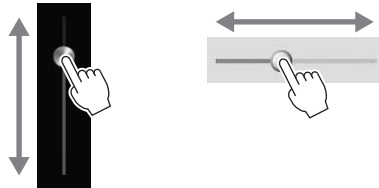
■ タッチする

画面上の項目を選ぶときは、指で軽く押します。



■ スライドする

スライダーなどのイラストでは、指で上下/左右になぞることで数値を増減させます。



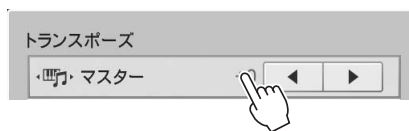
■ 回す

ノブなどのイラストでは、ノブの中心をタッチして、そのままノブの少し外側に指を滑らせ弧を描くようにすることで、数値を増減させます。



■ 長押しする

本書で、画面を「長押しします」とあったら、長めにタッチします。
[◀]/[▶]やスライダー、ノブを使って値を変更するときに、値の表示を長押しすると、初期設定に戻せます。



注記

先のとがったものや、爪などの硬いもので、画面を操作しないでください。画面を傷つけるおそれがあります。

NOTE

2か所以上を同時にタッチして操作することはできません。

NOTE

タッチパネルの操作音をオン/オフすることができます([メニュー] → [ユーティリティ] → [画面] → タッチパネル[タッチ音])。

データダイアルを回す

画面に表示されている内容によって、2つの使い方があります。

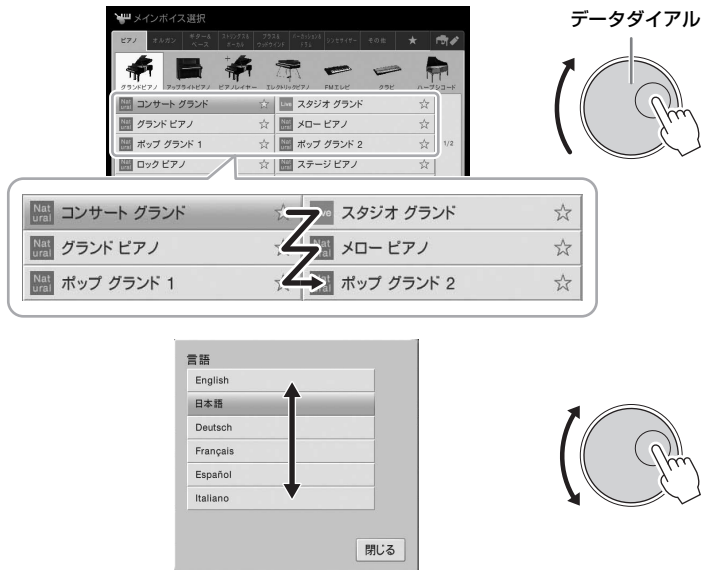
■ 設定値を変更する

設定したい項目をタッチしてから、データダイアルを回すと設定値を変更できます。値を細かく設定したいときや、画面でのタッチ操作がしにくいときに便利です。



■ リストから項目を選ぶ

ファイル選択画面(21ページ)や、リストの画面では、データダイアルで目的の項目(ボイスなど)を選べます。



[ホーム]ボタンを押す

電源を入れたときの画面(ホーム画面)に戻すボタンです。どの画面を表示していても、このボタンを押せばすぐにホーム画面を表示できます。



よく使う機能をホーム画面から呼び出せるようにする

メニュー画面からよく使う機能を選んで、ホーム画面下部のメニューエリア(20ページ)に、ショートカットとして表示させておくことができます。

ホーム画面にショートカットを作る

初期設定では、7つのショートカットが登録されていますが、好きなものに変更できます。

- 1 ショートカットを作りたい機能のアイコンを、画面下部のショートカットエリアの色が変わるまで、長押しします。



- 2 ショートカットを置きたい場所をタッチします。

その場所にあったアイコンに代わって、手順1で選んだ機能へのショートカットが登録されます。

ショートカットを移動する

- 1 移動したいショートカットのアイコンを、色が変わるまで長押しします。



- 2 ショートカットの移動先をタッチします。

移動先にあったアイコンと、手順1で選んだアイコンの位置が入れ替わります。

ショートカットを削除する

- 1 削除したいショートカットのアイコンを、色が変わるまで長押しします。



- 2 削除したいショートカットのアイコンを、もう一度タッチします。

選んだアイコンが消えます。

NOTE

中止するには、手順2に進む前に、画面上の空白部分をタッチします。

NOTE

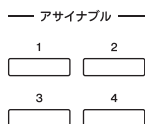
中止するには、手順2に進む前に、画面上の空白部分をタッチします。

NOTE

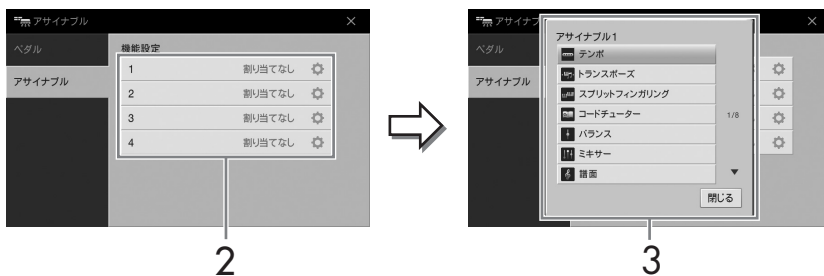
中止するには、手順2に進む前に、画面上の空白部分をタッチします。

アサインボタンに機能を割り当てる

画面左横にあるアサインボタン[1]～[4]ボタンに、よく使う機能を割り当てて、呼び出しやすくできます。また、メニュー画面(22ページ)にある各機能へのショートカットを登録することもできます。



1 設定画面を表示させます: [メニュー] → [アサインボタン] → [アサインボタン]



2 登録したいボタン番号を選んで、リストを表示させます。

3 登録したい機能、または(メニュー画面上の機能への)ショートカットを選びます。

NOTE




登録できる機能について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

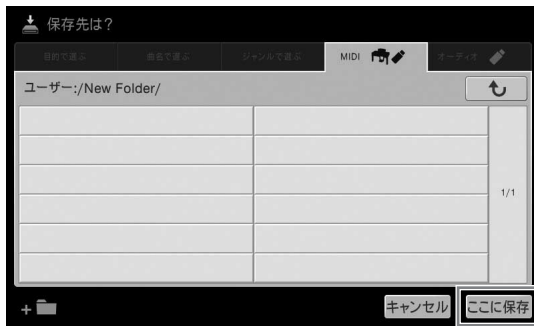
ファイルを管理する

あなたが作ったデータ(録音したソング、編集したボイスなど)は、楽器本体のユーザーメモリーやUSBフラッシュメモリーにファイルとして保存できます。ファイルが増えると、目的のファイルを探すのが大変になります。フォルダーを作ってファイルを整理したり、ファイルにわかりやすい名前を付けたり、不要なファイルを削除したりすることで、ファイルが探しやすくなります。ファイルの管理は、ファイル選択画面で行ないます。

ファイルを保存する

録音したソングや編集したボイスなどのデータを本体またはUSBフラッシュメモリーにファイルとして保存します。

- 1 各画面で、 (保存)をタッチして、保存先選択画面を表示させます。
- 2 ファイルの保存先を選びます。
上の階層(フォルダー)を表示するには、 をタッチします。
 (フォルダー作成)をタッチして新しいフォルダーを追加することもできます。



- 3 [ここに保存]をタッチして、文字入力画面を表示させます。
- 4 必要に応じて、ファイル名を入力します(32ページ)。
ファイル名は、あとで変更できる(28ページ)ので、そのまま手順5に進んでも構いません。
- 5 文字入力画面で[OK]をタッチすると、ファイルが保存されます。
保存されたファイルは、アルファベット順/50音順に並べ替えられて表示されます。

NOTE


USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

NOTE

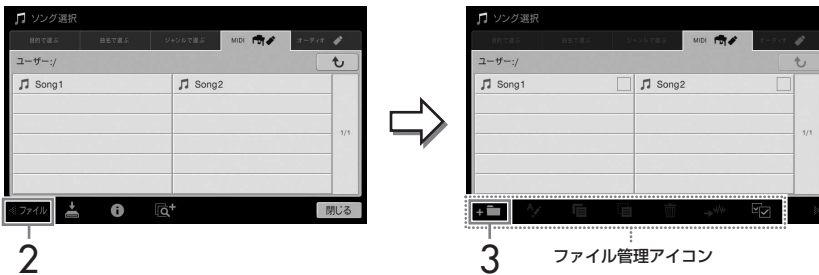
保存を中止するときは、[キャンセル]をタッチします。


フォルダーを作る

新しいフォルダーを作ります。フォルダーには、ファイルを種類別に分けて入れることができます。ファイル整理に活用しましょう。

- 1 ファイル選択画面で、ユーザータブ(21ページ)をタッチしてから、フォルダーを作成したい場所を選びます。
上の階層(フォルダー)を表示するには、 をタッチします。

- 2 [ファイル]をタッチして、ファイル管理アイコンを表示させます。



- 3  (フォルダー作成)をタッチして、文字入力画面を表示させます。

- 4 フォルダー名を入力します(32ページ)。


ファイル/フォルダーの名前を変える

ファイル/フォルダーの名前を書き換えます。

- 1 ファイル選択画面で、名前を変えたいファイル/フォルダーがある画面を表示させます。

- 2 [ファイル]をタッチして、ファイル管理アイコンを表示させます。

- 3 名前を変えたいファイル/フォルダーにチェックマークを付けます。

- 4  (名前変更)をタッチして、文字入力画面を表示させます。

- 5 ファイル/フォルダーの名前を入力します(32ページ)。

NOTE

- ユーザーメモリーに作成できるフォルダーの階層は3階層までです。保存できるファイルとフォルダーの数は、ファイルサイズやファイル名の長さによって異なります。
- ひとつのフォルダーに保存できるファイル/フォルダーの数は500までです。

NOTE

- ファイル操作を中止するには、右下にある[▶]をタッチして、ファイル管理アイコンを非表示にします。
- ファイル管理アイコンは、画面下部を左右にスライドさせることにより、表示したり非表示にしたりすることもできます。

NOTE

プリセットデータのファイル名は変更できません。

NOTE






- ファイル操作を中止するには、右下にある[▶]をタッチして、ファイル管理アイコンを非表示にします。
- ファイル管理アイコンは、画面下部を左右にスライドさせることにより、表示したり非表示にしたりすることもできます。

NOTE

名前を変えられるのは1ファイル/フォルダーずつです。




ファイルをコピーまたは移動する

ファイルを別の保存場所にコピーまたは移動します。元の場所に残したまま別の場所にコピーしたり、元の場所からは削除して別の場所に移動したりします。フォルダー単位でもコピーできます(移動はできません)。

- 1 ファイル選択画面で、コピーまたは移動したいファイル/フォルダーがある画面を表示させます。
- 2 [ファイル]をタッチして、ファイル管理アイコンを表示させます。
- 3 コピーまたは移動したいファイル/フォルダーにチェックマークを付けます。複数選ぶこともできます。すべてにチェックマークを付ける場合は、 (全チェック)をタッチします。もう一度  (全チェック)をタッチすると、すべてのチェックマークが外れます。
- 4  (コピー)または  (移動)をタッチし、コピー先または移動先の選択画面を表示させます。
- 5 ファイル/フォルダーのコピー先/移動先を選びます。
 (フォルダー作成)をタッチして新しいフォルダーを追加することもできます。
- 6 [ここにコピー]または[ここに移動]をタッチして実行します。
コピー/移動されたファイル/フォルダーは、アルファベット/50音順に並べ替えられて表示されます。

ファイル/フォルダーを削除する

ファイル/フォルダーを削除します。

- 1 ファイル選択画面で、削除したいファイル/フォルダーがある画面を表示させます。
- 2 [ファイル]をタッチして、ファイル管理アイコンを表示させます。
- 3 削除したいファイル/フォルダーにチェックマークを付けます。複数選ぶこともできます。すべてにチェックマークを付ける場合は、 (全チェック)をタッチします。もう一度  (全チェック)をタッチすると、すべてのチェックマークが外れます。
- 4  (削除)をタッチします。
- 5 確認メッセージが表示されたら、[はい]をタッチして削除を実行します。
削除を中止するときは、[いいえ]をタッチします。

NOTE

- プリセットデータは移動できません。
- 市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。市販のミュージックデータの中には、コピーできないものもあります。

NOTE

- ファイル操作を中止するには、右下にある[▶]をタッチして、ファイル管理アイコンを非表示にします。
- ファイル管理アイコンは、画面下部を左右にスライドさせることにより、表示したり非表示にしたりすることもできます。

NOTE

- コピー/移動を中止するときは、手順6へ進む前に[キャンセル]をタッチします。

NOTE

- プリセットデータは削除できません。

NOTE

- ファイル操作を中止するには、右下にある[▶]をタッチして、ファイル管理アイコンを非表示にします。
- ファイル管理アイコンは、画面下部を左右にスライドさせることにより、表示したり非表示にしたりすることもできます。

ファイルをお気に入りとして登録する

ボイス選択画面やスタイル選択画面では、お気に入りのボイスやスタイルをお気に入りタブに一覧表示させ、呼び出しやすくなります。お気に入りタブに追加するには、各ファイル名の右側にある[☆]をタッチします。お気に入りタブから削除するには、[★]をタッチします。



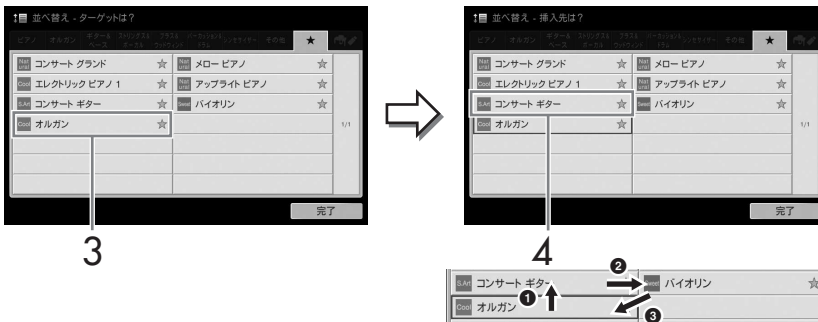
NOTE

- お気に入りに登録したボイスやスタイルは、元データのファイル名を変えたり、移動や削除したりすると、お気に入りタブに表示されていても呼び出せません。
- お気に入りタブでは、お気に入りを解除しても、お気に入りタブを閉じる（ほかの画面に切り替える）までは、お気に入りタブから削除されません。

お気に入りのファイルを並べ替える

お気に入りタブに表示されるボイスやスタイルの表示順を並べ替えます。


- 1 ソング選択画面またはスタイル選択画面で、お気に入りタブを選びます。
- 2 [並べ替え] (並べ替え) をタッチして、並べ替え画面を表示させます。
- 3 移動したいファイルを選びます。




- 4 移動先をタッチすると、ファイルが移動します。
- 5 必要に応じて、手順3~4をくり返します。
- 6 [完了]をタッチして並べ替え画面を抜けます。

プロテクトがかかったソングの制限

市販のミュージックデータ(ソング)の中には、コピー防止や誤消去防止のためにプロテクトがかかっているものがあります。プロテクトがかかったソングは、ソング選択画面で、ソング名の左側に下記のような表示が出ます。

-  (グレー): プロテクト1

内蔵のソングを本体のユーザーメモリーにコピーしたものや、ピアノプレーヤ用のミュージックデータです。USBフラッシュメモリーにコピー/移動/保存できません。

-  (黄色): プロテクト2オリジナル

ヤマハのプロテクトフォーマットがかかったソングです。コピーができません。ユーザーメモリーとUSBフラッシュメモリーに移動/保存できます。

-  (黄色): プロテクト2編集後

上記「プロテクト2オリジナル」を編集し、保存したソングです。編集元のファイルと同じフォルダーに保存します。コピーができません。ユーザーメモリーとUSBフラッシュメモリーに移動/保存できます。

「プロテクト2オリジナル」と「プロテクト2編集後」の扱い

プロテクト2オリジナルとプロテクト2編集後のソングは、同じフォルダーに保存してください。プロテクト2編集後のソングは、同じフォルダーにプロテクト2オリジナルのソングがないと再生できません。プロテクト2編集後のソングを移動するときは、必ずプロテクト2オリジナルのソングと一緒に移動してください。


文字を入力する

ファイル/フォルダーに名前を付けたり、ミュージックファインダー (71ページ)のキーワードを入力したりするとき、文字の入力方法を説明します。文字入力は、下記のような画面で行ないます。




1 文字種を選びます。

■ 言語設定(16ページ)が日本語の場合

- **abc(全角abc)**：半角(全角)アルファベット、数字
大文字/小文字を切り替えるには、 (シフト)をタッチします。
- **記号(全角記号)**：半角(全角)記号
- **カナ(半角か)**：全角(半角)カタカナ
- **かな漢**：ひらがな、漢字変換


全角/半角を切り替えるには、該当する文字種を長押しします。たとえば、[カナ]を長押しすると[半角か]になります。

■ 言語設定(16ページ)が日本語以外の言語の場合

[Symbol](または[abc])をタッチすると、半角記号/半角アルファベット(と数字)を切り替えられます。
大文字/小文字を切り替えるには、 (シフト)をタッチします。

2 [◀]/[▶]をタッチするか、データダイアルを回して、文字を入力したい位置にカーソルを移動させます。

3 入力したい文字を順にタッチします。

一文字だけを消すには[削除]をタッチし、すべての文字を消すには[削除]を長押しします。スペース(空白)を入力するには、で示したスペースの位置をタッチします。

■ 漢字に変換するには(言語設定が日本語の場合)：

入力した文字列が反転表示されているときに[変換]を何度かタッチして、変換候補を表示させます。[◀]/[▶]をタッチすると、漢字変換する範囲を変えられます。目的の漢字が表示されたら、[確定]をタッチします。変換中に[戻す]をタッチすると、ひらがなに戻ります。変換中に[キャンセル]をタッチすると、変換中の文字列がすべて消去されます。

■ 補助記号付きのアルファベットを入力するには(言語設定が日本語以外の場合)：

ウムラウトなどの補助記号付きのアルファベットを入力するには、もととなるアルファベットを長押しして候補を表示させ、入力したいアルファベットを選びます。たとえば、「Ë」を入力するには、[E]を長押しします。

4 [OK]をタッチして、入力した文字列(名前/キーワードなど)を確定します。

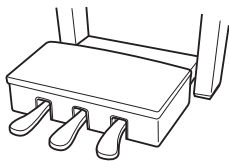
NOTE

- 入力画面によって、使用できない文字種があります。
- ファイル名は半角で41文字(全角20文字)、フォルダー名は半角で50文字(全角25文字)まで入力できます。
- 次の半角記号はファイル名/フォルダー名として入力できません。
¥ / : * ? ' < > |

NOTE

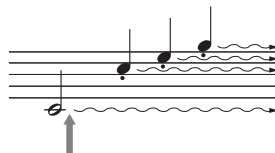
途中で文字入力を中止するときは、[キャンセル]をタッチします。

ペダルを使う



■ ダンパーペダル(右のペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。このペダルはハーフペダル機能に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤と、そのあと弾いた音すべてが長く響く。

ハーフペダル機能

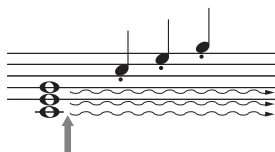
ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

GPレスポンスダンパーペダル(CVP-609のみ)

CVP-609のダンパーペダルは、ペダルを踏んだときの感覚をよりグランドピアノに近づけたGPレスポンスダンパーペダルです。ハーフペダルポイント(ペダルをどの程度踏んだらハーフペダル効果がかかるか)を体感しやすく、ハーフペダル効果をかけやすいのが特長です。楽器の設置場所など状況によって、踏み心地が異なる場合がありますので、必要に応じてハーフペダルポイントを好みの状態に設定してください([メニュー]→[アサインابل]→[ペダル])。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

■ ソステヌートペダル(まん中のペダル)

ピアノボイスを選んでいるときにこのペダルを踏むと、ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。ピアノボイス以外を選んだときには、その音色にふさわしい機能が割り当てられます。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く。

■ ソフトペダル(左のペダル)

ピアノボイスを選んでいるときにこのペダルを踏むと、音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。ピアノボイス以外を選んだときには、その音色にふさわしい機能が割り当てられます。ソフトペダルの効果のかかり具合は、調節できます([メニュー]→[アサインابل]→[ペダル])。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

ペダルにいろいろな機能を割り当てる

クラビノーバの3本のペダルと別売のフットコントローラー/フットスイッチには、ソングをスタート/ストップしたり、スーパーアーティキュレーションボイスのコントロールとして使ったりなど、いろいろな機能を割り当てて使うこともできます([メニュー]→[アサインابل]→[ペダル])。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

ペダルを踏むとペダルボックスがガタガタする場合は、アジャスターを回して床にぴったりつけてください(92、94ページ)。

NOTE

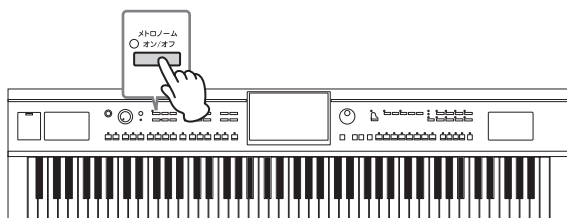
- ・ ストリングスやバスなどの持続音系のボイスでは、ダンパーペダルやソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せずに、持続して鳴り続けることがあります。
- ・ ダンパーペダル/ソステヌートペダルは、ドラムキットなどの打楽器系ボイスには機能しません。

NOTE

ペダルには、工場出荷時にビニール袋がふせてあります。GPレスポンスダンパーペダルの効果を最大にするためには、ビニール袋を外してください。

メトロノームを使う

[メトロノーム オン/オフ]ボタンで、メトロノームをスタート/ストップできます。正確なテンポで練習したいとき、また、実際のテンポを音で確かめたいとき、メトロノームをお使いください。

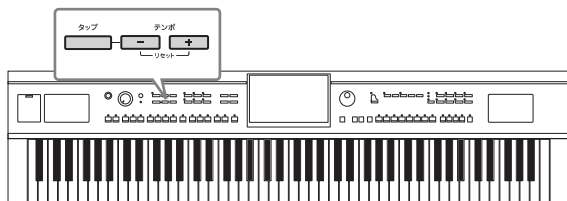


NOTE

メトロノームの拍子や音量、音色を変えることもできます([メニュー]→[メトロノーム]→[メトロノーム])。

テンポを調節する

テンポ[-]/[+]ボタンで、メトロノームやスタイル、MIDIソングの再生テンポを変えられます。スタイルやMIDIソングは、[タップ]ボタンでもテンポを調節できます。

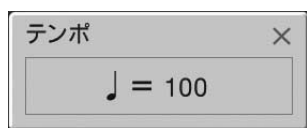


NOTE

オーディオソングのテンポは、タイムストレッチ機能(62ページ)で調整します。

■ テンポ[-]/[+]ボタン

テンポ[-]または[+]ボタンを押すと、テンポ画面が表示されます。テンポ[-]/[+]ボタンで、テンポ(5~500: 1分間の拍数)を調節します。ボタンを押し続けることによって値が連続的に変わります。テンポ[-]と[+]ボタンを同時に押すと、最後に選択されたスタイルまたはMIDIソングのテンポ値に戻ります。



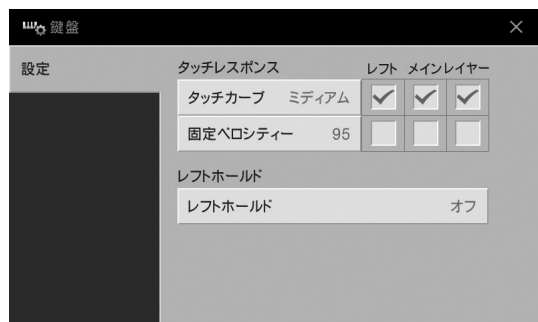
■ [タップ]ボタン

スタイルやMIDIソングの再生中に[タップ]ボタンを2回たたくと、たたいたテンポに切り替わります。スタイルやソングの停止中は、タイミングを取りながらボタンをたたくと(4分の4拍子の場合は4回)、そのテンポでスタイルのリズムパートの再生がスタートします。

鍵盤のタッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を変えられます(鍵盤自体の重さが変わるわけではありません)。

1 設定画面を表示させます: [メニュー] → [鍵盤]



2 画面をタッチして設定します。

タッチカーブ	設定したい鍵盤パートにチェックマークを付けてから、ここをタッチして設定画面を表示させ、タッチ感度を選びます。チェックマークを外すと、タッチはオフになります(音に強弱が付きません)。 <ul style="list-style-type: none">・ ハード2: 重いタッチです。強く弾かないと大きな音が出ません。・ ハード1: ハード2とミディアムの中間のタッチです。・ ミディアム: 標準的なタッチです。・ ソフト1: ソフト2とミディアムの中間のタッチです。・ ソフト2: 軽いタッチです。弱く弾いても大きな音が出ます。
固定ペロシティー	タッチをオフにしたい鍵盤パートにチェックマークがついていることを確認してから、ここをタッチして設定画面を表示させ、タッチがオフのときの音量を設定します。

鍵盤から指を離してもレフトボイスを鳴らしたままにする(レフトホールド)

上記画面で、「レフトホールド」をオンにして、レフトボイスの演奏をすると、鍵盤から指を離しても、レフトボイスを鳴らしたままにできます。ストリングスのように減衰しないボイスを鳴り続けるようにしたり、ピアノのように減衰するボイスをより遅く減衰するように(サステインペダルを踏んだように)できます。

レフトホールドをオンにすると、ホーム画面中央の鍵盤イラストの左側にHマークが表示されます。



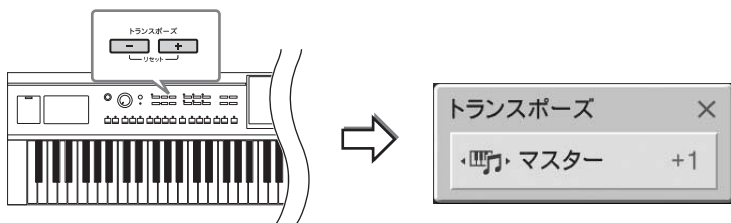
この機能は、スタイル再生時に便利です。コード鍵域で弾いた音が持続するので、スタイル再生音がより豊かになります。鳴っているレフトボイスを止めるには、スタイルまたはソングの再生を停止させるか、レフトホールドをオフにします。

NOTE

楽器音(ボイス)によっては、音に強弱が付かないものもあります。

音の高さを半音単位で調整する(トランスポーズ)

トランスポーズ[-]/[+]ボタンで、鍵盤演奏、MIDIソング再生、スタイル再生など、半音単位(-12~12)でトランスポーズ(移調)できます。[-]と[+]を同時に押すと初期設定(0)に戻ります。



必要に応じて、移調するパートを変更できます。トランスポーズ画面を何度かタッチして、移調したいパートを表示させてから、トランスポーズ[-]/[+]ボタンで移調させます。

マスター	楽器全体の音を移調します(オーディオソング、マイクや[AUX IN]端子からの入力音を除く)。
鍵盤	鍵盤演奏音、および鍵盤演奏によって発音するスタイル再生音を移調します。
ソング	MIDIソングの再生音を移調します。

音の高さの微調整(チューニング)

初期状態では、楽器のピッチは、A3=440.0Hz、平均律で設定されています。ピッチや音律は、[メニュー]→[チューニング]で変更できます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

音量バランスを調節する

バランス画面([メニュー]→[バランス])で、鍵盤演奏音(メイン、レイヤー、レフト)、スタイルやソングの再生音、マイク出力音の音量バランスを調節できます。パートごとにスライダーを上下に動かして調節します。

なお、MIDIソングとオーディオソングでは音量が異なるため、MIDIソングを選んだ場合と、オーディオソングを選んだ場合と、それぞれで音量バランスを設定する必要があります。



NOTE

- オーディオソングの音の高さは、ピッチシフト機能(62ページ)で調整します。
- ドラム/SFXキットボイスは移調できません。

NOTE

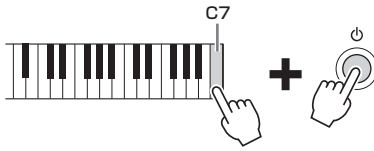
[メニュー]→[トランスポーズ]からも設定できます。

NOTE

Hz(ヘルツ)とは、音の高さ(1秒間に音波が何回振動するか)を示す単位です。ピアノでは通常440.0Hzで調律することが多いので、この楽器では440.0Hzを初期設定としています。

設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)

右端の鍵盤(C7)を押したまま電源を入れます。楽器の設定が、初期状態に戻ります。



設定を変更した値をそれぞれ初期設定に戻すには、その設定画面で値の表示を長押しします(23ページ)。

データのバックアップ

本体内のユーザーデータ(プロテクトソングは除く)とすべての設定を、1つのバックアップファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存します。本体に保存したデータの万一の事故に備えて、大切なデータはUSBフラッシュメモリーにバックアップとして保存することを必ずおすすめします。

- 1 バックアップ先のUSBフラッシュメモリーを、[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 設定画面を表示させます: [メニュー] → [ユーティリティ] → [ファクトリーリセット/バックアップ] → 2/2ページ



- 3 すべて[バックアップ]をタッチして、USBフラッシュメモリーにバックアップファイルを保存します。

バックアップファイルを読み込む(リストア)

バックアップしたファイルを楽器に再読み込み(リストア)するには、上記手順3ですべて[リストア]をタッチします。操作が終わると、楽器が再起動します。

NOTE

特定の設定だけを工場出荷時の状態に戻したり、ユーザーメモリー内のファイル/フォルダーをすべて削除したりすることもできます([メニュー] → [ユーティリティ] → [ファクトリーリセット/バックアップ] → 1/2ページ)。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

NOTE

- ・ ボイス、ソング、スタイル、レジストレーションメモリーについては、ファイルごとにUSBフラッシュメモリーにコピーすることで、個別にバックアップとして保存できます(29ページ)。
- ・ システム設定、MIDI設定、ユーザーエフェクト、ミュージックファインダーのレコードについては、個別にバックアップとして保存することもできます。

注記

ユーザーメモリーに保存したプロテクトソングは、リストアの前に移動させてください。移動させないとリストアしたときに失われます。

NOTE

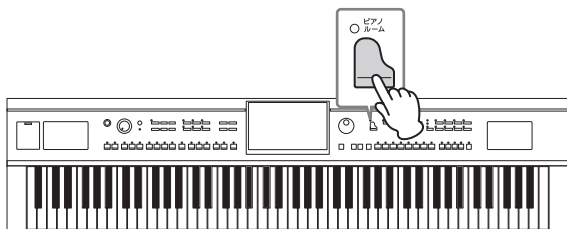
バックアップ/リストアは、完了するのに数分かかることがあります。

ピアノ演奏を楽しむ(ピアノルーム)

ピアノルームは、シンプルにピアノ演奏だけを楽しみたい、という方に便利な機能です。パネルがどんな設定になっていても、ワンタッチでピアノ演奏専用の設定を呼び出すことができます。また、自分の好きなピアノ設定に変えることもできます。

ピアノ演奏をする

- 1 [ピアノルーム]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。
ピアノ演奏専用の設定が呼び出され、ペダルやメトロノーム、音量調節以外の機能が使えなくなります。



- 2 演奏します。
ペダル(33ページ)やメトロノーム(34ページ)を使いながら演奏できます。
- 3 画面右上にある[×]をタッチして、ピアノルーム画面を閉じます。
ピアノルーム画面を呼び出す前のパネル設定に戻ります。

ピアノルームの設定を変える

ピアノの種類など、ピアノルームの設定を自分の好みに合わせて変えられます。ここでの設定は、ピアノルームでの演奏のみに有効です。また、ピアノルーム画面以外での設定はピアノルームでの演奏には効果しません。

- 1 [ピアノルーム]ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。



-2

2 画面をタッチして、好みのピアノ設定に変更します。


■ ピアノの種類を選ぶ

ピアノのイラストをタッチします。画面下部にピアノのイラストが表示されたら、好きなピアノを選びます。ピアノを選ぶと、そのピアノで最後に選択された空間(下記参照)も自動的に呼び出されます。


■ 空間(音響効果)を選ぶ

ピアノの背景のイラストをタッチします。画面下部に空間のリストが表示されたら、好きな空間を選びます。

■ 詳細設定をする

 (設定)をタッチして詳細設定画面を表示させ、選ばれているピアノの設定を行ないます。選ばれているピアノの種類によっては設定できない項目があります。

屋根	ピアノの屋根の開き具合を設定します。
タッチ	鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を設定します。 ソフト.....軽いタッチです。弱く弾いても大きな音が出ます。 ミディアム...標準的なタッチです。 ハード.....重いタッチです。強く弾かないと大きな音が出ません。
チューン	鍵盤全体のピッチ(音の高さ)を1Hz単位で設定します
ダンパーレゾナンス	ダンパーペダルを踏んだときの共鳴効果(ダンパーレゾナンス)をオン/オフします。
ストリングレゾナンス	弦共鳴音効果(ストリングレゾナンス)をオン/オフします。
キーオフサンプリング	キーオフ音(鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングした音)をオン/オフします。
リセット	ここをタッチすると、選ばれているピアノの上記設定が初期状態に戻ります。

 (ヘルプ)をタッチすると、上記のうち一部の操作説明が表示されます。

ピアノルーム画面を閉じたり、電源を切ったりしてもピアノルームでの設定は保持されています。

[ピアノルーム]ボタンを押すと、最後に使ったピアノ設定が呼び出されます。

ピアノルームの状態に固定する(ピアノロック)

楽器の設定を、最後に使ったピアノルームでの状態に固定(ピアノロック)できます。ピアノロック中は、どのボタンを押しても設定が切り替わらず、鍵盤とペダル操作、[音量]ダイヤルでの音量調節以外はできなくなります。

1 [ピアノルーム]ボタンを2秒以上押し続けます。

画面にメッセージが表示されます。

2 [ロック]をタッチして、ピアノロック画面を表示させます。

パネル設定が、ピアノルームの状態に固定されます。

ピアノロックをしたまま電源を入れ直すと、ピアノロックした状態で電源が入ります。ピアノロックを解除するには、もう一度[ピアノルーム]ボタンを2秒以上押し続けます。

NOTE

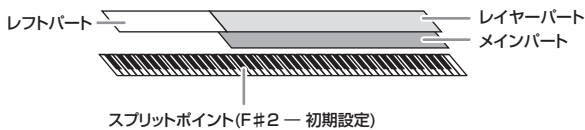
- ピアノのイラストを左右にスライドさせることにより、ピアノの種類を変えることもできます。
- グランドピアノまたはポップグランドが選ばれているときは、屋根の部分タッチして上下にスライドすることで、屋根を開閉できます。

いろいろな楽器音で演奏する(ボイス)

クラビノーバでは、ピアノのほかに、弦楽器、管楽器などのボイス(楽器音)を選んで弾くことができます。

内蔵のボイスを選んで弾く

ボイスは3つの鍵盤パート(メイン、レイヤー、レフト)で鳴らすことができます。メインパートを鳴らすだけでなく、2つのボイスを重ねて鳴らしたり、鍵域を左右に分けて別々のボイスで弾いたりできます。この3つのパートを組み合わせて同時に鳴らすことにより、厚みのある演奏ができます。



レフトパートがオフのときは、全部の鍵盤でメイン、レイヤーパートの音が鳴ります。レフトパートがオンのときは、F#2よりも低い鍵盤(F#2も含む)ではレフトパートの音が鳴り、これより高い鍵盤ではメイン、レイヤーパートの音が鳴ります。メインパートとレフトパートの境目(スプリットポイントといいます)では、鍵盤ガイドランプが点灯します。オンになっているパートのボイスはホーム画面で確認できます。

1 鍵盤パートを選び、ボイス選択画面を表示させます。

ボイスは、鍵盤パートごとに選ぶ必要があります。

■ 画面で操作する場合:

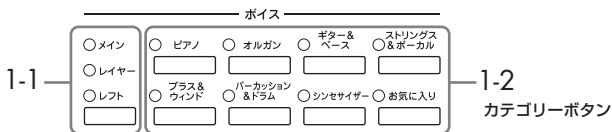
- 1-1 ホーム画面のボイスエリアで[メイン]/[レイヤー]/[レフト]をタッチして、ボイスを選ぶ鍵盤パートをオンにします。
オンになっている鍵盤パートと選ばれているボイス名が表示されます。



- 1-2 対象の鍵盤パートのボイス名をタッチして、ボイス選択画面を表示させます。

■ ボタンで操作する場合:

- 1-1 ボイス[メイン/レイヤー/レフト]ボタンを押して、ボイスを選ぶ鍵盤パートのランプを点灯させます。



- 1-2 ボイスのカテゴリーボタンの1つを押して、ボイス選択画面を表示させます。

NOTE

メインパートをオフにしてレイヤーパートだけを鳴らすこともできます。

NOTE

スプリットポイントは変更できません(42ページ)。

NOTE

ボイスの設定は、レジストレーションメモリーに保存できます(75ページ)。

NOTE

ボイスのカテゴリーボタンの1つを押したまま、別のカテゴリーボタンを押すと、最初に押したボタンに対応したボイスをメインパートに、あとに押したボタンに対応したボイスをレイヤーパートに設定できます。



2 画面をタッチしてボイスを選びます。




NOTE

「その他」タブ内のボイスについては、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

ボイスの特徴がわかる演奏を聞く

 (デモ)をタッチすると、選ばれているボイスのデモ演奏がスタートします。デモ演奏を止めるには、もう一度  (デモ)をタッチします。

 (情報)をタッチすると、選ばれているボイスの情報画面が表示されます(情報画面がないボイスもあります)。

NOTE

情報画面に表示されるデモのアイコンをタッチしてデモを聞くこともできます。

3 ホーム画面で、演奏したい鍵盤パートがオンになっていることを確認します。

鍵盤パートのオン/オフは、画面で操作する場合の手順1-1の方法で行なえます。

4 鍵盤を弾いてみましょう。



ボイスの特徴

ボイス選択画面の各ボイス名の左側にボイスの特徴を表すアイコンが表示されます。



ここでは一部のみ説明します。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

- S.Art / S.Art 2**: **スーパーアーティキュレーション(SA、SA2)ボイス**
「アーティキュレーション」とは、レガートやスタッカートなどの奏法の違いによって演奏にさまざまな表情を付けることを表します。鍵盤の弾き方だけで、演奏に繊細で微妙な表情を与えられます。詳しくは、43ページをご覧ください。
- Organ Flutes**: **オルガンフルートボイス**
ボイス編集で倍音の混ざり具合をコントロールして、本格的なオルガン演奏が楽しめるボイスです。詳しくは44ページをご覧ください。
- Drums / Live Drums**: **ドラムボイス**、**SFX / Live SFX**: **SFXボイス**
いろいろな打楽器の音色(Drums)がまたは効果音(SFX)が鍵盤に割り振られています。鍵盤でドラム演奏したり効果音を鳴らしたりできます。どの鍵盤にどの音色が割り当てられているかは、別冊データリストのドラム/SFXキットリストをご覧ください。

NOTE

- SAボイス、SA2ボイスは、他のモデルとの互換性がありません。したがって、これらのボイスを使ったスタイル/ソングデータを、SAボイス/SA2ボイスを搭載していない楽器で再生した場合は、この楽器で鳴っていたサウンドを再現できません。
- SAボイス、SA2ボイスは、演奏する鍵域や鍵盤を強く強く(ペロシティー)などによって鳴り方が変わります。したがって、キーボードハーモニーをオンにしたり、移調したり、ボイス設定を変更したりすると、意図しない鳴り方になることがあります。
- SA2ボイスは、リアルタイム演奏に最適な状態に設定されています(ペダルによる効果やピブラート設定など)。そのため、SA2ボイスを使った演奏をソング録音すると、録音したソングを再生した際に、演奏時と異なって聞こえる場合があります。

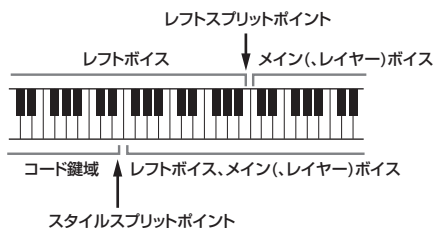
ピアノ演奏の初期設定に戻す(ピアノリセット)

電源を入れた直後では、全鍵域でコンサートグランドのボイスでピアノ演奏ができる状態になっています。パネルがどんな設定になっていても、簡単にこの状態に戻すことができます。

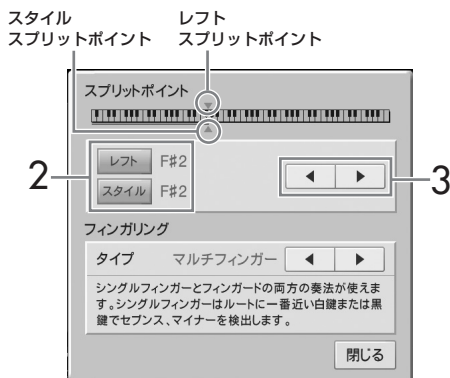
- 1 [ピアノルーム]ボタンを2秒以上押し続けます。
画面にメッセージが表示されます。
- 2 [リセット]をタッチすると、ピアノ演奏の初期設定に戻ります。

スプリットポイントを設定する

鍵盤の機能を左右で分割するポイントをスプリットポイントといいます。レフトボイス用とメインボイス用の領域を分けるレフトスプリットポイントと、コード鍵域を指定するスタイルスプリットポイントがあります。この2つは初期設定では同じ鍵盤位置(F#2)になっていますが、違う位置に設定することもできます。



- 1 スプリットポイント/フィンガリング画面を表示させます: [メニュー] → [スプリットフィンガリング]



- 2 [レフト]または[スタイル]をオンにします。
両方同じ位置に設定したい場合は、両方をオンにします。
- 3 [◀]/[▶]をタッチして、スプリットポイントに設定したい鍵盤を選びます。
画面上の鍵盤イラストをタッチしたまま、実際の鍵盤を押してスプリットポイントを設定することもできます。

NOTE

スプリットポイント/フィンガリング画面は、ホーム画面にある鍵盤のイラストを長押しして表示させることもできます。

NOTE

レフトスプリットポイントは、スタイルスプリットポイントより低い位置には設定できません。

スーパーアーティキュレーションボイスを使う

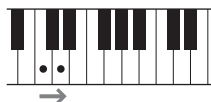
スーパーアーティキュレーション(SA、SA2)ボイスでは、鍵盤の弾き方やペダルの踏み方しだいで、演奏に繊細な表情を付けることができます。

■ SAボイス

SAボイスでは、それぞれの楽器独特の奏法をよりリアルに再現できます。

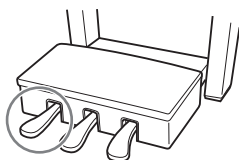
・例：サクソ

ドとレの音をレガートで弾くと、2つの音が滑らかにつながって、サクソ奏者が一息で演奏したときのように聞こえます。



・例：ギター

ドの音を押ししたまま左のペダルを踏むと、レの音がハンマリングの音で鳴ります。



■ SA2ボイス(CVP-609のみ)

ヤマハのAEM技術を用いて作られたボイスです。特に管楽器やバイオリンの音について、弾き始めや弾き終わりの音にバンドやスライドの効果をかけたり、2つの音を滑らかにつなげたりなど、その楽器特有の繊細な表現が可能です。

・例：クラリネット

ドの音を押しえたまま上で上のシ♭の音を弾くと、ドからシ♭までグリッサンドしたときの音が鳴ります。また、鍵盤をある一定の時間押さえると、鍵盤を離れたときにグリッサンドやバンドなどの効果が付きます。



ペダルを使って表情を付ける

メインパートにSAまたはSA2ボイスを選ぶと、左とまん中のペダルが自動的にアーティキュレーション用の設定に切り替わります。

ペダルを踏むことで、鍵盤演奏とは違った演奏効果を引き出すことができます。たとえば、管楽器のプレスノイズやキーノイズ、ギターのボディをたたいたときの音やフレットノイズなどを鳴らせます。

SA2ボイス(CVP-609のみ)では、ペダルを踏みながら鍵盤を押さえたり離したりすることで、バンドアップ/バンドダウン、グリッサンド、およびプラスフォールのような効果をかけ、弾き始めまたは弾き終わりの音に表情を付けます。

SAボイス、SA2ボイスでは、ホーム画面のボイス名の右上に[S.Art]や[S.Art2]のアイコンが表示されます。アイコンをタッチすると情報画面を表示できます。

NOTE


AEMとは、データベースの中から演奏に最適なサンプリングデータをリアルタイムで選び出し、それらを滑らかにつなげて発音させることで、自然なアコースティック楽器の音を再現する技術です。

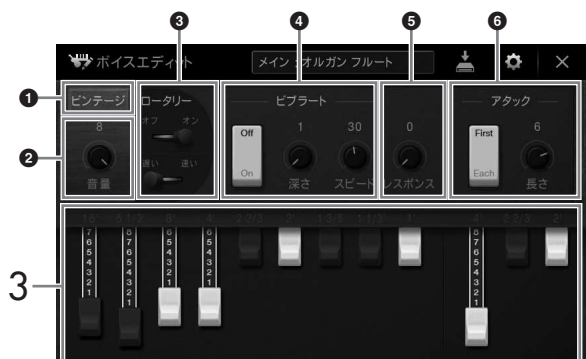
NOTE

- ボイスによってペダルの設定が切り替わるのをオフにすることもできます。[メニュー] → [アサインابل] → [ペダル] → [メインボイスに連動])。]
- アサインابلボタンにアーティキュレーション機能を割り当てれば(26ページ)、ボタンでアーティキュレーション効果を操作することもできます。

オリジナルのオルガンボイスを作る(オルガンフルート)


プリセットのオルガンフルートボイスを編集して、オリジナルのオルガンサウンドを作れます。伝統的なオルガンのように、複数のフルートフッタージ(音栓に相当するボリューム)のレベルを上げ下げして音を作ります。作ったボイスは保存して、必要なときに呼び出して使えます。

- 1 ボイス選択画面で、もとなるオルガンフルートボイスを選びます。
[オルガン]カテゴリ内にある[オルガンフルート]タブをタッチしたあと、好きなオルガンボイスを選びます。
- 2 ホーム画面で、ボイス名の右上にある  (オルガンフルート)をタッチして、オルガンフルートボイス編集画面を表示させます。
- 3 フッタージレバーをスライドさせてフルートフッタージを調節します。
フッタージの設定により、オルガンフルートの基本音色が決まります。



また、必要に応じて、オルガンタイプを変えたり、ロータリースピーカーやビブラートなどの設定を変えたりもできます。

1	オルガンタイプ	オルガンボイス作成のもとなるボイスのタイプを選びます。
2	音量	オルガンフルート全体の音量を調節します。
3	ロータリースピーカー	ロータリースピーカーのオン/オフや、速度(速い/遅い)を切り替えます。ROTARY SPカテゴリのエフェクトタイプが選ばれている場合のみ設定できます。
4	ビブラート	ビブラートをオン/オフしたり、深さや速さを調節します。
5	レスポンス	音のアタックとリリースの反応時間を調節します。
6	アタック	アタックのモード(First/Each)を切り替えたり、アタック音の長さを調節します。

- 4  (保存)をタッチして、作ったオルガンボイスを保存します。
保存の手順については、27ページをご覧ください。

NOTE

フッタージとは、異なる長さのパイプによって音作りが行なわれる伝統的なパイプオルガンの音作りを参考に付けられた用語です。パイプが長いほどピッチが低くなります。

NOTE

ボイスを選んでから、[メニュー]→[ボイスエディット]でボイス編集画面を開くと、オルガンフルートボイス以外のボイスも編集することができます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

エフェクトやイコライザーの設定をすることもできます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

注記

設定を保存せずにほかのボイスに切り替えると、ここでの設定は失われます。ご注意ください。

リズムや自動伴奏に合わせて演奏する(スタイル)

スタイルを使えば、左手でコードを押さえるだけでコードに合った伴奏を自動で鳴らせます。これにより、一人で演奏しても、バンドやオーケストラの伴奏を付けられます。ポップス、ジャズなどいろいろな音楽ジャンルのスタイルがあります。

スタイルに合わせて演奏する

まずは、下記の楽譜を使って、スタイル機能を試してみましょう。スタイルの使い方がわかったら、いろいろなスタイルを使って自由に演奏してみてください。

メリーさんのひつじ(スタイル: カントリー 8ビート)

The musical score is presented in two systems. The first system contains four measures with chords C, C, G, and C. The second system contains five measures with chords C, C, F, G, and C, followed by an ending section indicated by a box labeled 'エンディング' with a downward arrow.

- 1 ホーム画面のスタイルエリアでスタイル名をタッチしてスタイル選択画面を表示させます。



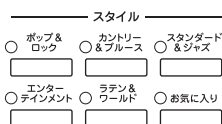
NOTE

この楽譜は、フィンガリングタイプ(52ページ)が、初期設定のマルチフィンガー、またはシングルフィンガーでの演奏を想定しています。

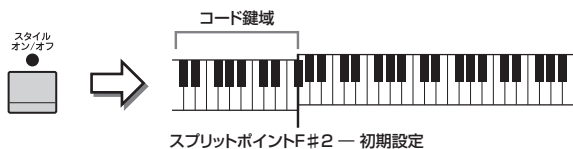
- 2 画面をタッチしてスタイルを選びます。

この楽譜では、[カントリー & ブルース]カテゴリーの[モダンカントリー]をタッチし、[カントリー 8ビート]を選びます。

スタイルのカテゴリーは、スタイルボタンを押して選ぶこともできます。



- 3 [スタイルオン/オフ]ボタンがオンになっていることを確認します。
[スタイルオン/オフ]ボタンがオンの場合、鍵盤の左手側(低音鍵域)が、スタイル再生用のコードを押さえるための鍵域(コード鍵域)になります。



- 4 ホーム画面のスタイルエリアで左上の[◀]をタッチして拡張表示させ、[≡] (シンクロスタート)をタッチして、シンクロスタートをオンにします。



以降、ホーム画面のスタイルエリアでの操作は、スタイルコントロールボタン(47ページ)を使って行なうこともできます。

- 5 左手でコードを押さえると同時に、スタイルがスタートします。
45ページの楽譜を見ながら、左手でコードを押さえ、右手でメロディーを弾きます。



- 6 [▶/■] (スタート/ストップ)をタッチして、スタイルをストップします。
楽譜上の「エンディング」の位置で、エンディング[I]~[Ⅲ]のいずれかをタッチしてストップすることもできます(45ページ)。

スタイルの特徴

スタイル選択画面の各スタイル名の左側に、特徴を表すアイコン(Pro、Sessionなど)が表示されます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。



スタイルはリズムやベースなど8つのパート(チャンネル)で構成されています。チャンネルごとにオン/オフしたりボイスを変えたりして、スタイルの雰囲気を変えることができます(80ページ)。

NOTE

スプリットポイントは変更できません(42ページ)。

スタイルの互換性

この楽器のスタイルは、SFF GEフォーマット(9ページ)で作成されています。一般的なSFFファイルを読み込むこともできますが、読み込んだSFFファイルはこの楽器上で保存すると、SFF GEフォーマットに変換されます。SFF GEフォーマットに変換されたスタイルファイルは、SFF GE対応の楽器上でしか再生できなくなります。

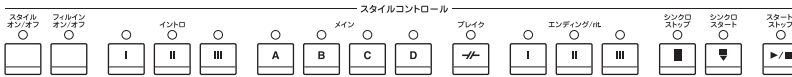
スタイル再生を操作する

スタイル再生は、ホーム画面のスタイルエリアを拡張表示させて、操作します。また、スタイルコントロールボタンを使っても同様に操作できます。

ホーム画面



スタイルコントロールボタン



[スタイルオン/オフ]、[フィルインオン/オフ]、[シンクロストップ]については、ボタンでのみ操作できます。

再生スタート/ ストップ

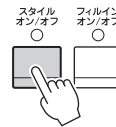
■ [▶/■](スタート/ストップ)

スタイルのうち、リズムパートだけをスタートします。もう一度押すとストップします。



リズムと自動伴奏を鳴らす

[スタイルオン/オフ]ボタンをオンにすれば、スタイル再生中にコード鍵域でコードを押さえると、リズムパートだけでなく自動伴奏も鳴ります。



NOTE

内蔵のスタイルにはリズムパートが入っていないものもあります。このようなスタイルは、[スタイルオン/オフ]ボタンをオンにしてお楽しみください。

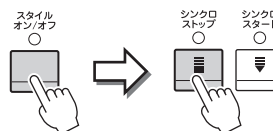
■ [≡](シンクロスタート)

このボタンを押すと、スタイル再生が待機状態になります。[スタイルオン/オフ]ボタンがオンのときは、コード鍵域を押さえるとスタイル再生がスタートします。[スタイルオン/オフ]ボタンがオフのときは、どの鍵盤を弾いてもスタイル再生(リズムのみ)がスタートします。スタイル再生中に[≡](シンクロスタート)を押すと、スタイル再生はストップし、待機状態に戻ります。



■ [シンクロストップ]ボタン

[スタイルオン/オフ]ボタンがオンの場合だけ有効なボタンです。シンクロストップをオンにすると、コード鍵域で鍵盤を弾いている間だけスタイルが鳴ります。

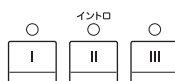


NOTE

フィンガリングタイプ(52ページ)で、フルキーボードまたはAIフルキーボードを選んだ場合は、シンクロストップをオンにできません。

■ イントロ[I]~[III]

演奏にイントロを付けます。各内蔵スタイルに、3つのイントロがあります。イントロ[I]~[III]のいずれかを押してからスタイルをスタートすると、イントロを演奏してからメイン演奏に移ります。



NOTE

イントロ[I]または[III]を選んだ場合には、完全なイントロを鳴らすために、コード鍵域でコードを弾く必要があります。

■ エンディング[I]~[III]

演奏にエンディングを付けます。各内蔵スタイルに、3つのエンディングがあります。スタイル再生中に、エンディング[I]~[III]のいずれかを押すと、エンディングが鳴ったあと、スタイルは自動的にストップします。エンディング演奏中にもう一度同じボタンを押すと、スタイルは徐々に遅くなってからストップします。



演奏中のセクション(伴奏パターン)切り替え

演奏を盛り上げるために、同じスタイルの中で伴奏パターンを切り替えたりフィルインを入れたりできます。

■ メイン[A]~[D]

曲のメイン部分の伴奏パターンです。数小節の伴奏パターンがくり返し演奏されます。各内蔵スタイルに、4つのパターンがあります。スタイル再生中に、メイン[A]~[D]のいずれかを押すと、セクションが切り替わります。また、スタイル停止中に、メイン[A]~[D]のいずれかを押しておく、選んだメインでスタイル再生をスタートできます。再生中のメインのボタンを押すと、フィルインが入ります。

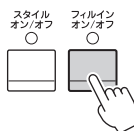


再生中のメインセクションボタン(赤点灯)を押すと...

フィルインが再生(赤点滅)

セクション切り替え時に自動的にフィルインを入れる

[フィルインオン/オフ]ボタンをオンにしておく、メインを切り替えたときに自動的にフィルインが演奏されます。



■ [-/-](ブレイク)

曲の流れを一時中断することで区切りを付けることができます。スタイル再生中に[-/-](ブレイク)を押すと、1小節のブレイクが入ります。



イントロ、メイン、ブレイク、エンディングボタンのランプについて

- ・ **赤点灯:** データが入っていて、現在選ばれています。
- ・ **赤点滅:** 次に再生されるセクションです。
*メイン[A]~[D]ボタンは、フィルイン演奏中にも赤点滅します。
- ・ **緑点灯:** データが入っていて、現在選ばれていません。
- ・ **消灯:** データが入っていません。

NOTE

メインセクション再生中にエンディング[I]を押すと、エンディング1の 패턴の前に、自動的にフィルインが1小節入ります。

選んだスタイルに合うパネル設定を呼び出す (ワンタッチセッティング=OTS)

選んだスタイルに合ったパネル設定(ボイス、エフェクト、ペダル設定など)をワンタッチで簡単に呼び出せます。使いたいスタイルが決まっているときは、ボイス選択をワンタッチセッティングに任せてみましょう。

- 1 スタイルを選びます(45ページ手順1~2)。
- 2 ワンタッチセッティング(OTS)[1]~[4]ボタンのいずれかを押します。
ボイス、エフェクト、およびペダル設定など、選択中のスタイルに最適な設定が呼び出されます。また、[スタイル オン/オフ]とシンクロスタートは、自動的にオンになります。



ワンタッチセッティングの内容を確認する

スタイル選択画面で、**i** (情報) をタッチすると、選ばれているスタイルで、ワンタッチセッティングの[1]~[4]ボタンにどんなボイスが入っているかを確認できます。情報画面で、ワンタッチセッティング1~4のいずれかにタッチして、その設定を呼び出すこともできます。

- 3 左手でコードを押さえると同時にスタイルがスタートします。
1つのスタイルには、4つのワンタッチセッティングが用意されています。ワンタッチセッティング(OTS) [1]~[4]ボタンを切り替えて、ほかの設定も試してみてください。

スタイルのメイン切り替えとワンタッチセッティングの切り替えを連動させる(OTSリンク)

[OTSリンク]ボタンをオンにしておくと、スタイルのメイン[A]~[D]を切り替えたときに自動的にワンタッチセッティングが切り替わります。メインのA~Dとワンタッチセッティングの1~4が連動します。



NOTE

オフになっているパートのボイス名は、グレー表示されます。

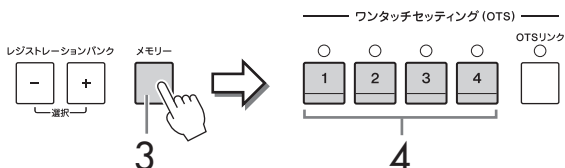
NOTE

ワンタッチセッティングが実際に呼び出されるタイミング(OTSリンクタイミング)を変更できます
([メニュー] → [スタイル設定] → [設定] → [OTSリンクタイミング])。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

ワンタッチセッティングにパネル設定を登録する

自分で設定した内容をワンタッチセッティングに登録できます。ワンタッチセッティングはスタイルの一部としてユーザータブに保存し、演奏時にはユーザースタイルとして呼び出します。

- 1 ワンタッチセッティングに登録したいスタイルを選びます。
- 2 ボイスやエフェクトなどのパネル設定をします。
- 3 レジストレーションメモリー [メモリー] ボタンを押します。



4 ワンタッチセッティング(OTS)[1]~[4]ボタンのいずれかを押します。

パネル設定の保存を促すメッセージが表示されます。

5 [はい]をタッチして保存先を選ぶ画面(スタイル選択画面)を表示させ、パネル設定をユーザースタイルとして保存します。

保存の手順については、27ページをご覧ください。

NOTE

登録を中止するときは、[いいえ]をタッチします。

注記

パネル設定を保存せずにスタイルを切り替えたり電源を切ったりすると、登録したデータは失われます。ご注意ください。

選んだスタイルで演奏できる曲を検索する

ミュージックファインダー(71ページ)の検索機能を使うことにより、選んだスタイルでどのような曲が弾けるかがわかります。弾きたい曲を選ぶと、それに合うパネル設定(ボイス、エフェクト、ペダル設定など)が呼び出せます。

1 パネル設定を呼び出したいスタイルを選びます(45ページ手順1~2)。

2 スタイル選択画面で、 (検索)をタッチします。

選択中のスタイルを使って弾ける曲の一覧が表示されます。



2



3

3 演奏したい曲を選びます。

選んだ曲を演奏するのに合ったパネル設定が呼び出されます。

NOTE

ミュージックファインダー機能を使う前に、レコード(パネル設定を収録したデータ)を楽器に読み込んでおくことをおすすめします(71ページ)。

NOTE


検索を中止するときは、[キャンセル]をタッチします。

NOTE

スタイルによっては、パネル設定の候補がないものもあります。

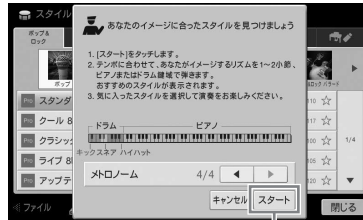
演奏に合うスタイルを呼び出す(スタイルレコメンダー)

スタイルレコメンダー機能を使って、鍵盤で1~2小節のリズムを弾くと、それに合ったおすすめスタイルが呼び出されます。

- 1 スタイル選択画面で、 (レコメンダー)をタッチして、スタイルレコメンダー画面を表示させます。

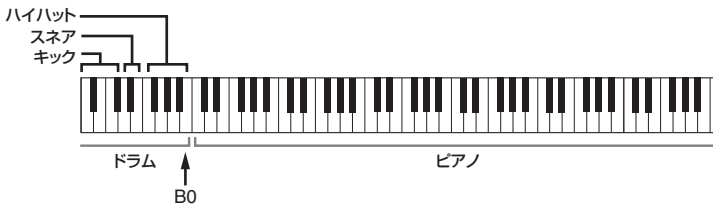


1



2-1

鍵盤がB0を境に分割され、左側にドラム音(キック、スネア、ハイハット)、右側にピアノ音が割り当てられます。



- 2 スタイルレコメンダー機能を使ってスタイルを呼び出します。

2-1 [スタート]をタッチすると、演奏の待機状態になり、メトロノームが鳴り出します。必要に応じて、テンポ[-]/[+]ボタンまたは[タップ]ボタンでテンポを調節したり、画面の[◀]/[▶]をタッチして拍子を設定します。

2-2 メトロノームに合わせて、演奏したい曲のリズムをドラム鍵域またはピアノ鍵域で1~2小節弾きます。

鍵盤を押したタイミングが数秒で解析され、最もおすすめのスタイルが再生されます。また、おすすめスタイルの候補が一覧表示されます。

例1
ピアノ鍵域で下記のリズムを弾いてみましょう。



ボサノバかそれに近いスタイルが一覧表示されます。

例2
ドラム鍵域で下記のリズムを弾いてみましょう。



8ビートかそれに近いスタイルが一覧表示されます。

NOTE

中止するときは、[キャンセル]をタッチします。

NOTE

楽器が解析するのは、鍵盤を押したタイミングのみです。音の高さや鍵盤を押している時間の長さ、鍵盤を弾く強さは解析されません。

- 3 一覧の中からスタイルを選びます。
セクションを切り替えたり(48ページ)、ピアノ鍵域でコードを弾いたり、テンポを変えたり(34ページ)しておすすめのスタイルを試してみましょう。
演奏したい曲に合うスタイルがない場合は、[リトライ]をタッチして、手順2-2からやり直します。
- 4 気に入ったスタイルを選んだら、[OK]をタッチしてスタイルレコメンダー画面を閉じます。
- 5 選んだスタイルを使って演奏してみましょう。

コードの認識方法(フィンガリングタイプ)を変える

フィンガリングタイプを変更すれば、コードの構成音すべてを左手で押さなくても、適切な自動伴奏が再生できます。フィンガリングタイプは、7種類から選べます。

- 1 スプリットポイント/フィンガリング画面を表示させます: [メニュー] → [スプリットフィンガリング]



- 2 [◀/▶]をタッチして、フィンガリングタイプを選びます。

<p>シングルフィンガー</p>	<p>簡単なルールに従って鍵盤を1~3つ押さえるだけで、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスのコードを認識します。スタイル再生に対してだけ有効です。</p> <p>C  メジャー ルートキーだけ押さえる</p> <p>Cm  マイナー ルートキーと、左の黒鍵を押さえる</p> <p>C7  セブンス ルートキーと、左の白鍵を押さえる</p> <p>Cm7  マイナーセブンス ルートキーと、左の黒鍵と白鍵を押さえる</p>
<p>マルチフィンガー</p>	<p>「シングルフィンガー」の押鍵ルールと「フィンガード」の押鍵ルールの両方が使えます。</p>

NOTE

スプリットポイント/フィンガリング画面は、ホーム画面にある鍵盤のイラストを長押しして表示させることもできます。

フィンガード	コードを構成する音をそのまま押すことによって、コードを指定する方法です。詳細は別冊データリストをご覧くださいか、コードチューター機能([メニュー] → [コードチューター])で調べることができます。
フィンガード オンベース	フィンガードで認識されるコードに加え、オンベースコード(押さえたコード音の中で一番低い音がベース音になります)も認識しますので、より高度なコード進行を利用した演奏が可能になります。
フルキーボード	左手/右手鍵域に関係なく、全鍵域での押鍵をもとにコードを検出します。同時に全鍵域で通常どおり鍵盤演奏も行なえます。
AIフィンガード	基本的にはフィンガードと同じですが、鍵盤を2音以下しか押さなくても、1つ前に弾いたコードなどをもとに適切なコードを推定します。
AIフルキーボード	全鍵域で通常のピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さなくても自動伴奏が再生されます。特定のコードの弾き方にとられず、鍵盤のどこで演奏してもリズム、ベース、コードやフレーズによる自動伴奏がつきます。(曲のアレンジによっては、AIフルキーボードでの演奏に合わない場合もあります) 基本的にはフルキーボードと似ていますが、鍵盤を2音以下しか押さなくても、1つ前に再生されたコードなどをもとに適切なコードを推定します。ただし、9thと11thと13thは認識されません。スタイル再生に対してだけ有効です。

曲(ソング)を再生して練習する

クラビノーバでは、内蔵曲や市販の曲データなどを総称して「ソング」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、ソングを再生しながら演奏の練習をすることもできます。

この楽器で再生できるソングには、MIDIソングとオーディオソングの2種類があります。

• MIDIソング

鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、(クラビノーバなどの)音源部が鳴ることではじめて音になります。鍵盤パートやボイスの情報なども記録されているため、譜面の表示、パートごとのオン/オフ、ボイスの変更ができ、演奏の練習に便利です。

• オーディオソング

演奏した音そのものを記録したデータです。テープレコーダーやボイスレコーダーなどを使って録音するのと同じしくみで記録したものです。携帯音楽プレーヤーなどで再生するのと同じように、市販のCDの曲など(WAV形式またはMP3形式に変換したもの)をこの楽器で再生できます。

MIDIソングとオーディオソングでは、使える機能が異なります。この章では、下記のように説明しています。

<例> **MIDI** **オーディオ** ここでの説明は、MIDIソングで使える機能です。オーディオソングでは使えません。

ソングを再生する

MIDI **オーディオ**

以下のソングが再生できます。

- 楽器に内蔵されているプリセットソング(MIDIソング)
- この楽器で録音して作成したソング(録音方法については63ページ参照)
- 市販の曲：SMF (Standard MIDI File)形式のMIDIファイル、WAV形式またはMP3形式のオーディオファイル

WAV形式	サンプルレート44.1 kHz、量子化ビット数16bit、ステレオ
MP3形式	MPEG-1 Audio Layer-3: サンプルレート44.1/48.0kHz、ビットレート64~320kbps(可変ビットレートにも対応)、モノ/ステレオ

USBフラッシュメモリーに入っている曲を再生したい場合は、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続しておきます。

1 ホーム画面でソング名をタッチして、ソング選択画面を表示させます。



NOTE

- ヤマハマニュアルライブラリー(3ページ)で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。
- この楽器で再生できるMIDIソングのフォーマットについては、9ページをご覧ください。

NOTE





USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

2 画面をタッチしてソングを選びます。


プリセットソングは下記のタブから選びます。

- **目的で選ぶ:** 目的別に表示されます。
- **曲名で選ぶ:** アルファベット順/50音順に表示されます。
- **ジャンルで選ぶ:** ジャンル別に表示されます。

自分で録音したソングや市販の曲などは下記のタブから選びます。

- **MIDI**   : MIDIソングが表示されます。
- **オーディオ**   : オーディオソングが表示されます。

ソング情報を表示する

オーディオソングまたはプロテクトがかかったMIDIソングを選んだ場合、 をタッチすると情報画面を表示できます。

3 ホーム画面のソングエリアで右上の[▶]をタッチして拡張表示させ、[▶/||] (スタート/一時停止)をタッチして、ソングをスタートします。



以降、ホーム画面のソングエリアでの操作は、ソングコントロールボタンを使って行うこともできます(56ページ)。

次に再生するソングを予約する(MIDIソングのみ)

MIDIソング再生中に、次に再生させるMIDIソングを1曲だけ予約できます。ステージ演奏などでスムーズに次のソングを再生させたいときに便利です。ソングを予約するには、ソング再生中に、ソング選択画面で次に再生させるソングを選びます。次に再生させるソングは、ソング名の右側に[Next]アイコンが表示されます。ソングの予約を解除するには、[Next]アイコンをタッチします。

4 [■](ストップ)をタッチすると、ソングがストップします。

NOTE

オーディオソングでは、ソング選択画面やホーム画面で、ソング名のところに表示されるアイコンからデータ形式を判別できます。MP3形式の場合、「MP3」と表示されます。WAV形式の場合は表示されません。

ソング再生を操作する

ソング再生は、ホーム画面のソングエリアを拡張表示させて、操作します。また、ソングコントロールボタンを使っても同様に操作できます。

ホーム画面



ソングコントロールボタン



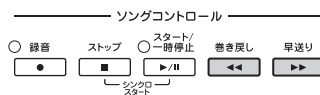
ボタンを2つ同時に押す操作については、画面ではできません。

■ 一時停止する



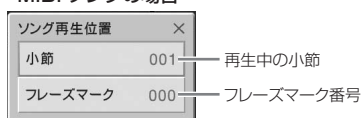
ソング再生中に[▶/||](スタート/一時停止)を押します。一時停止した位置からソングを再生するには、もう一度[▶/||](スタート/一時停止)を押します。

■ 巻き戻し/早送りする



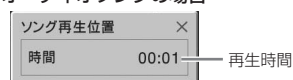
ソング再生中または停止中に[◀◀](巻き戻し)/[▶▶](早送り)を押します。1度だけ押しと、MIDIソングの場合は1小節、オーディオソングの場合は1秒だけ巻き戻し/早送りします。押し続けると手を離すまで巻き戻し/早送りし続けます。[◀◀](巻き戻し)/[▶▶](早送り)を押すと、ソング再生位置を示すポップアップ画面が表示されます。

MIDI ソングの場合



フレーズマーク番号は、フレーズマークがあるMIDIソングだけに表示されます。巻き戻し/早送りを小節単位で行なう場合は「小節」を、フレーズマーク単位で行なう場合は、「フレーズマーク」をタッチしてから巻き戻し/早送りをします。

オーディオソングの場合



NOTE

テンポの調節については、MIDIソングは34ページを、オーディオソングは62ページをご覧ください。

NOTE

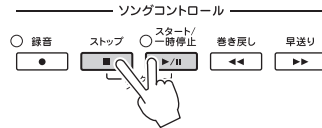
【●】(録音)については、63ページをご覧ください。

再生位置の移動

ホーム画面のソングエリア(拡張表示)には、ソングの再生位置が表示されます。スライダーを使って、再生位置を進めたり戻したりできます。



■ MIDIソングを演奏と同時にスタートする(シンクロスタート)



MIDIソングを選んでから、ソングコントロール[ストップ]ボタンを押したまま[スタート/一時停止]ボタンを押して鍵盤を弾くと、鍵盤を弾くと同時にソング再生がスタートします。シンクロスタートを解除するときは、もう一度ソングコントロール[ストップ]ボタンを押したまま[スタート/一時停止]ボタンを押します。

NOTE

ホーム画面のソングエリア(拡張表示)で、[▶/||]を長押しすることにより、シンクロスタートさせることもできます。

譜面を表示する

MIDI

オーディオ

選んだソングの譜面(楽譜)を表示させます。譜面を見ながら演奏の練習をする場合に便利です。

1 MIDIソングを選びます(54ページ手順1~2)。

2 譜面を表示させます: [メニュー] → [譜面]

ソングの停止中は、[◀]/[▶]をタッチしてページをめくれます。ソングを再生すると、ソングの再生に合わせて、譜面上のボールが再生位置を移動します。



ページ切り替え

表示サイズを変えたり、音名を表示させるなど譜面の表示方法を変えることもできます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

曲(ソング)を再生して練習する

NOTE

- 譜面は、自分で録音したソングや市販のソングでも表示させることができます。
- 表示される譜面はソングデータ(演奏データ)をもとに作成されます。そのため、細かい音符が多い曲や複雑な曲を表示するときは、市販の楽譜とは異なる場合があります。

歌詞を表示する

MIDI

オーディオ

ソングに歌詞データが入っている場合、画面上に歌詞を表示できます。弾き語りやカラオケをするときに便利です。

1 MIDIソングを選びます(54ページ手順1~2)。

2 歌詞画面を表示させます: [メニュー] → [歌詞]

ソングに歌詞データが入っていれば、歌詞が画面上に表示されます。ソングの停止中は、[◀]/[▶]をタッチしてページをめくれます。ソング再生を始めると、再生に合わせて歌詞の色が変わります。



ページ切り替え

歌詞画面について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

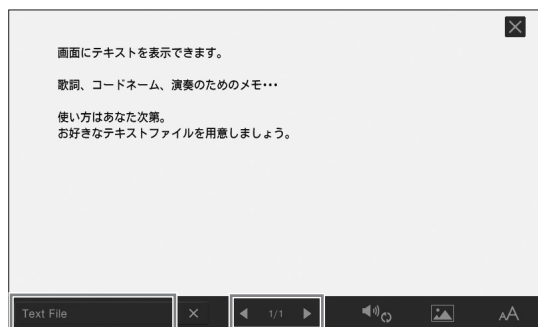
歌詞画面をテレビなどの外部モニターに映すことができます(83ページ)。

テキストファイルを表示する

ソングを選んでいる/いないにかかわらず、コンピューターで作成したテキストファイル(拡張子.txt)を画面に表示できます。歌詞やコードネーム、演奏のテクニックを書いたメモなどを表示して、さまざまな使い方ができます。

USBフラッシュメモリーに入っているテキストを表示したい場合は、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続しておきます。

1 テキスト画面を表示させます: [メニュー] → [テキスト表示]



2

ページ切り替え

2 画面左下をタッチして、テキストファイル選択画面を表示させます。

3 目的のテキストファイルを選んで、[閉じる]をタッチすると、テキストが表示されます。

[◀]/[▶]をタッチしてページをめくれます。画面からテキストを消すには、テキストファイル名の右側にある[X]をタッチします。

フォントサイズの変更など、テキスト画面について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

テキスト画面をテレビなどの外部モニターに映すことができます(83ページ)。

NOTE


テキストファイルの指定情報は、レジストレーションメモリー(75ページ)に記憶できます。

ガイド機能を使って片手ずつ練習する

MIDI

オーディオ

ここでは、「フォローライツ」というガイド機能を使った右手練習のしかたを説明します。ガイド機能をオンにすると、鍵盤ガイドランプが、鍵盤を弾くタイミングや押さえる鍵盤を教えてください。正しい鍵盤を弾くまで伴奏が待ってくれるので、自分のペースで練習できます。右手部分を消音し、ガイドランプに合わせて右手の練習をしてみましょう。

- 1 MIDIソングを選び、譜面を表示させます(57ページ)。
- 2  (再生設定)をタッチして、再生設定画面を表示させます。



- 3 [ガイド]をタッチしてガイド機能をオンにします。
- 4 [右手]をタッチして右手パートだけをオフにします。
右手パートが消音され、右手パートのガイドが用意されます。
- 5 ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、ソングをスタートさせます。
鍵盤ガイドランプを見ながら、自分のペースで右手の練習をしましょう。右手以外のパートが、あなたが正しい鍵盤を弾くまで待ってくれます。



練習が終わったら、ガイド機能をオフにしましょう。

その他のガイド機能

ガイド機能には、ここで説明した「フォローライツ」のほかに、鍵盤を弾くタイミングだけを練習する「エニーキー」、カラオケ練習用の「カラオキー」、弾くペースに合わせてソングのテンポが変化する「ユアテンポ」があります。

[メニュー] → [ソング設定] → [ガイド] → [タイプ]

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

白鍵のガイドランプは赤、黒鍵のガイドランプは緑に光ります。

NOTE

再生設定は、ホーム画面や歌詞画面からでもできます。

NOTE

- 左手パートを練習する場合は、[スタイルオン/オフ]ボタンをオフにしておく必要があります。
- MIDIソングは、16のチャンネルから構成されていて、通常[右手]にチャンネル1、[左手]にチャンネル2、[その他]にチャンネル3~16が割り当てられています。ミキサー機能を使って、チャンネルごとにオン/オフすることもできます(80ページ)。

くり返し再生を使って練習する

MIDI

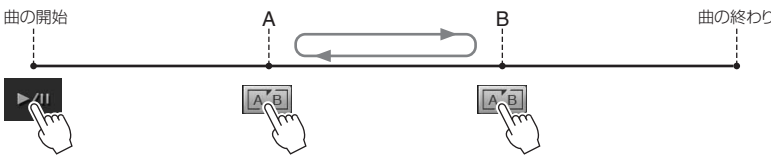
オーディオ

難しいフレーズをくり返して練習するときには、くり返し再生を使うと便利です。くり返し再生のオン/オフはホーム画面のソングエリア(拡張表示)で操作します。



[A/B] (ABリピート)をオンにしてからソングを再生すると、1曲をくり返して再生します。くり返し再生をやめるには、**[A/B]** (ABリピート)をオフにします。

指定した範囲をくり返し再生する(ABリピート)

- 1 ソングを選びます(54ページ手順1~2)。
- 2 **[▶/||]**(スタート/一時停止)をタッチして、ソングをスタートします。
- 3 くり返し位置を指定します。
くり返し再生の開始位置(A点)にしたい所で **[A/B]** (ABリピート)をオンにします。くり返し再生の終了位置(B点)にしたい所で、もう一度 **[A/B]** (ABリピート)をタッチします。A点とB点を指定すると、その範囲がくり返し再生されます。MIDIソングの場合は、A点の前にカウントが入ります。

- 4 **[■]**(ストップ)をタッチして、ソングをストップします。
再生位置がA点に戻ります。次にソング再生をスタートすると、A点から再生が始まります。
練習が終わったら、**[A/B]** (ABリピート)をオフしておきましょう。

ソングの停止中にA点とB点を指定する

- 1 A点にしたい所までソングを早送りして **[A/B]** (ABリピート)をオンにします。
- 2 B点にしたい所までソングを早送りしてもう一度 **[A/B]** (ABリピート)をタッチします。

NOTE

- 複数のソングを続けてくり返し再生することもできます ([メニュー] → [ソング設定] → [再生] → [リピートモード])。
- MIDIソングでは、譜面画面や歌詞画面から再生設定画面を呼び出し(60ページ)、画面上のタッチ操作でも、くり返し再生を操作できます。

NOTE

- A点を曲の開始位置、B点を曲の途中に設定したい場合は、下記の操作をしてください。
 1. ABリピートアイコンをオンにしてから、ソング再生をスタート
 2. くり返し再生の終了位置(B点)にしたいところでもう一度ABリピートアイコンをタッチ
- A点だけを指定して、B点を指定せずにいると、A点からソングの最後までがくり返し再生されます

曲(ソング)を再生して練習する

音の高さを半音単位で調整する(ピッチシフト)

MIDI

オーディオ

MIDIソングのトランスポーズ(36ページ)のように、USBフラッシュメモリーにあるオーディオソングの再生音の高さ(ピッチ)を、半音単位(-12~12)で調整できます。

- 1 オーディオソングが入ったUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 オーディオソングを選びます(54ページ手順1~2)。
- 3 ホーム画面のソングエリア(拡張表示)で **0** (ピッチシフト)をタッチして、設定画面を表示させます。



- 4 [◀]/[▶]をタッチして設定します。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

NOTE

サンプリングレートが48.0 kHzのMP3ファイルは、ピッチを変えられません。

再生速度を調節する(タイムストレッチ)

MIDI

オーディオ

MIDIソングのテンポ調節(34ページ)のように、USBフラッシュメモリーにあるオーディオソングの再生速度を調節できます。

オーディオソングを選んでから、ホーム画面のソングエリアで **100%** (タイムストレッチ)をタッチします。設定画面が表示されたら、[◀]/[▶]をタッチして設定値(70%~140%)を選びます。値が小さいほど速度が遅くなります。



NOTE

サンプリングレートが48.0 kHzのMP3ファイルは、速度を変えられません。

ボーカル部分を消音する(ボーカルキャンセル)

MIDI

オーディオ

ステレオ再生のセンターに位置する音をキャンセル(消音)できます。多くの場合、ボーカル音がセンターにあるので、カラオケをしたり、メロディー部分を鍵盤で演奏したいときなどに便利です。

オーディオソングを選んでから、ホーム画面のソングエリアで **○** (ボーカルキャンセル)をタッチしてオン/オフします。



NOTE

ボーカルキャンセルをオンにしても、ボーカルの音が完全に消えるわけではありません。

演奏を録音する

この楽器では、下記2通りの方式で録音できます。用途に合った方式で演奏を録音してみましょう。

● MIDI録音

録音した演奏をSMF(フォーマット0)のMIDIソングとして、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに保存します。オーディオソングよりデータ容量が小さく、編集しやすいのが特長です。鍵盤パートごとに録音したり、録音後に部分的に録音し直したりできます。MIDI録音で作られたソングは、あとでオーディオファイルに変換(67ページ)できるので、難しい曲をオーディオ録音したい場合などは、まずMIDI録音でパートごとに録音すると便利です。この楽器で録音できるMIDIデータのサイズは、1曲につき約300KBまでです。

● オーディオ録音

録音した演奏をオーディオソングとしてUSBフラッシュメモリーに保存します。初期設定では、一般的なCD音質(44.1kHz/16bit)のステレオWAV形式で保存され、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。[MIC./LINE IN]端子や[AUX IN]端子からの入力音も録音されるので、マイクを接続して歌声も一緒に録音したり、オーディオ機器を接続してその再生音も録音したりできます。保存するファイル形式は、[メニュー] → [ソング設定] → [録音] → [オーディオ録音形式]でMP3に変更できます。この楽器で録音できる時間は、1曲につき80分までです。

基本的な録音方法(MIDI録音/オーディオ録音)

録音を始める前に、ボイスやスタイルなどのパネル設定をしたり(MIDI録音/オーディオ録音とも)、歌声を録音したい場合はマイクを接続するなど(オーディオ録音のみ)、必要な準備をしておきましょう。また、必要に応じてUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続しておきましょう。

オーディオ録音をする場合は

オーディオ録音では、USBフラッシュメモリーに録音データを保存します。オーディオ録音する前に、必ずUSBフラッシュメモリーを接続しておきましょう。

- 1 ホーム画面のソングエリアで右上の[▶]をタッチして拡張表示させ、[●](録音)をタッチして、ソング録音画面を表示させます。



以降、ホーム画面のソングエリアでの操作は、ソングコントロールボタン(56ページ)を使って行なうこともできます。

- 2  (MIDI録音の場合)または  (オーディオ録音の場合)をタッチします。

録音のための空のソングが用意されます。

録音を中止するときは、[キャンセル]をタッチするか、ソングコントロール[録音]ボタンを押します。

NOTE

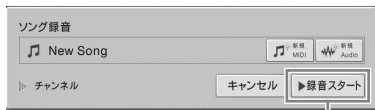
USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

既存のMIDIソングを録音し直したいときは

MIDIソングについては、一度録音して保存したものを上書きで録音し直せます。ソング選択画面で録音し直したいMIDIソングを選んでから、ソング録音画面を呼び出し(手順1)、ソング名を確認したあと、手順2を飛ばして手順3に進んでください。

3 録音をスタートします。

MIDI録音の場合は、演奏を開始するか [録音スタート] をタッチすると録音がスタートします。オーディオ録音の場合は、[録音スタート] をタッチすると録音がスタートします。



3

ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して録音をスタートすることもできます。

4 演奏しましょう。



5 演奏が終わったら、ホーム画面で [■] (ストップ) をタッチして、録音を終わります。



6 [▶/||] (スタート/一時停止) をタッチして、録音した演奏を再生して聞いてみましょう。

7 録音した演奏を保存します。

■MIDI録音の場合

録音後、ホーム画面のソングエリアに [保存] (保存) が表示されます。これは保存されていない録音済みのデータがあることを示しています。

7-1 ホーム画面のソングエリアで [保存] (保存) をタッチします。

保存先の選択画面が表示されます。

7-2 27ページの手順2~5に従って、録音データをファイルとして保存します。

MIDIソングは [MIDI] (ユーザー MIDIソングタブ) に保存します。

■オーディオ録音の場合

録音と同時に、自動的にUSBフラッシュメモリーに保存されるため、保存の操作は必要ありません。録音したオーディオソングは、ソング選択画面の [オーディオ] (ユーザーオーディオソングタブ) に表示されます。必要に応じて、ファイル名を変更してください (28ページ)。

録音パートのチャンネル割り当て (MIDI録音)

MIDI録音では、鍵盤の各パート (チャンネル) を個別に録音できます (65ページ)。

ここでの説明のように特にパート指定をしないで録音した場合は、鍵盤パートはチャンネル1~3へ、スタイルパートは9~16チャンネルに録音されます。

注記

録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

NOTE

オーディオ録音の場合、初期設定ではWAV形式で保存されますが、[メニュー] → [ソング設定] → [録音] → [オーディオ録音フォーマット] で、MP3形式に変更できます。

パート(チャンネル)ごとに録音する(MIDI録音)

MIDI録音では、全部で16チャンネルで構成されるMIDIソングを、1チャンネルずつ録音して作り上げることができます。たとえば、ピアノ曲の場合、右手パートをチャンネル1に録音したあと、左手パートをチャンネル2に録音すれば、両手で弾くのが難しいピアノ曲を録音することができます。また、スタイルを使う場合では、チャンネル9～16にスタイル演奏を先に録音しておき、あとでスタイルを聞きながらチャンネル1にメロディーを録音することができます。このように、1回で演奏するのが難しい曲でも、パート別に重ねて録音をすることによって、1つの曲に仕上げることができます。

1 録音済みのソングに追加録音する場合、MIDIソングを選びます(54ページ手順1～2)。

新規で録音する場合にはこの操作は不要です。

2 ホーム画面のソングエリアで右上の[▶]をタッチして拡張表示させ、[●](録音)をタッチして、ソング録音画面を表示させます。

すでにあるソングに追加録音する場合は、手順1で選んだソングの名前が表示されます。新規に録音する場合は、手順3へ進む前に[新規MIDI]アイコンをタッチしてください。録音のための空のソングが用意され、「New Song」と表示されます。



以降、ホーム画面のソングエリアでの操作は、ソングコントロールボタン(56ページ)を使って行なうこともできます。

3 「チャンネル」の左側にある[▶]をタッチします。

4 録音するチャンネルやパートを指定します。

チャンネルを指定するには、チャンネル番号をタッチしてオン/オフします。録音したいチャンネルをオンにします。演奏するパートを指定するには、指定したチャンネルの下にあるパートのアイコンをタッチしてパート選択画面を表示させ、パートを選びます。



NOTE

録音を中止するときは、手順5へ進む前に、[キャンセル]をタッチするか、ソングコントロール[録音]ボタンを押します。

NOTE

初期設定では、メイン、レイヤー、レフトは、1～3チャンネルに割り当てられていますが、ほかのチャンネルに変更することもできます([メニュー]→[ソング設定]→[各パートのCh])。

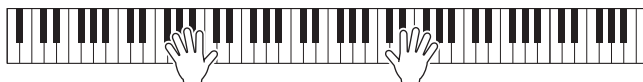
簡単に設定したい場合は、画面左下の鍵盤パート([右手]/[左手]/[その他])を選びます。

- **右手:** 右手の演奏のみを録音したいときに選びます。メインパートとレイヤーパートが、チャンネル1と3にそれぞれ録音されます。
- **左手:** 左手の演奏のみを録音したいときに選びます。レフトパートがチャンネル2に録音されます。レフトパートがオフの場合は、メインパートとレイヤーパートが、チャンネル2と4にそれぞれ録音されます。
- **その他:** スタイル演奏のみを録音したいときに選びます。スタイルパートが、チャンネル9～16に録音されます。

5 演奏しましょう。

演奏を始めると同時に自動的に録音が始まります。

[録音スタート]をタッチするか、ソングコントロール[スタート/一時停止]ボタンを押して、録音をスタートすることもできます。



6 演奏が終わったら、ホーム画面で[■](ストップ)をタッチして、録音を終わります。



7 [▶/||](スタート/一時停止)をタッチして、録音した演奏を再生して聞いてみましょう。

8 手順2～7をくり返し、別のチャンネルに録音します。

手順4では一度録音したチャンネル以外のチャンネルを選び、手順5では録音済みのチャンネルを聞きながら演奏しましょう。

9 録音した演奏を保存します。

9-1 ホーム画面のソングエリアで [保存] (保存) をタッチします。

保存先選択画面が表示されます。

9-2 27ページの手順2～5に従って、録音データをファイルとして保存します。

NOTE

別のチャンネルを録音するときに、録音済みのチャンネルを再生するかしないかを、ミキサー画面(80ページ)で設定できます。

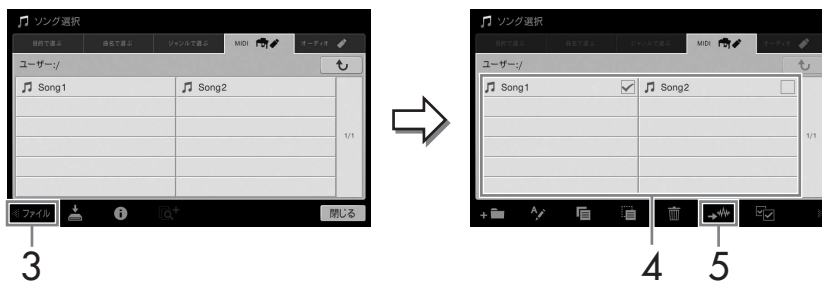
注記



録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

MIDIソングをオーディオソングに変換する

ユーザーメモリーやUSBフラッシュメモリーに保存したMIDIソングを、オーディオソングに変換してUSBフラッシュメモリーに保存できます。MIDIソングを再生してその音声をオーディオソングとして録音し直すしくみのため、オーディオ録音の場合(63ページ)と同様に、初期設定では、WAV形式のファイルとして保存されます。

- 1 オーディオソングを保存するためのUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 ソング選択画面で、オーディオ変換したいMIDIソングがある画面を表示させます。
- 3 [ファイル]をタッチして、ファイル管理アイコンを表示させます。



- 4 オーディオ変換したいMIDIソングにチェックマークを付けます。
- 5  (オーディオ変換)をタッチし、保存先の選択画面を表示させます。
- 6 変換後のファイルの保存先を選びます。
 (フォルダー作成)をタッチしてフォルダーを追加することもできます。
- 7 [変換]をタッチして変換をスタートします。

ソングの再生が始まり、同時にオーディオへの変換が始まります。再生中に、鍵盤を弾いたり、マイクや[AUX IN]端子から音声入力すると、その音も一緒に録音されます。変換が終わると、実行中のメッセージが消え、変換後のオーディオソングがソング選択画面に表示されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

NOTE

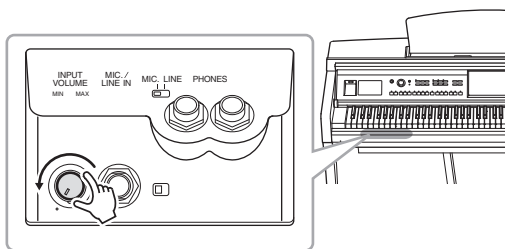
オーディオ変換することができるのは1曲ずつです。

マイクを使って歌声にハーモニーを付ける

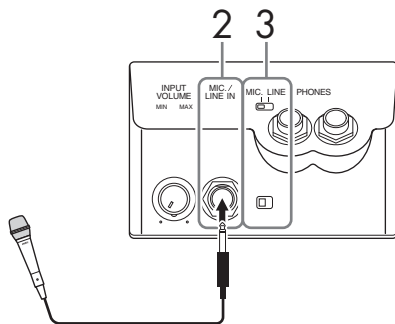
[MIC./LINE IN]端子にマイクを接続すると、弾き語りやカラオケをして楽しめます。マイク入力された音声は、楽器本体のスピーカーから鳴ります。また、歌声にさまざまなハーモニーを付けることもできます。

マイクを接続する

- 1 楽器の電源を入れる前に、[INPUT VOLUME]を最小にします。



- 2 [MIC./LINE IN]端子にマイクを接続します。

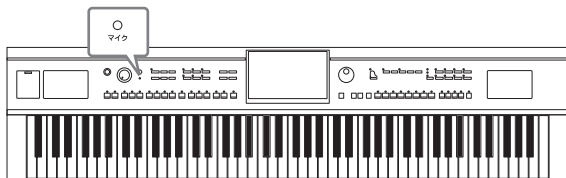


- 3 [MIC. LINE]切り替えスイッチをMIC.側に切り替えます。

- 4 楽器の電源を入れます。

- 5 (必要に応じてマイクをオンにして、)マイクに向かって声を出しながら、[INPUT VOLUME]を調整します。

[マイク]ランプを見ながら調整してください。[マイク]ランプは、音声が入力されたときに点灯します。このランプが緑色に点灯するように調整してください。赤に点灯した場合は、入力音声が大きすぎます。



- 6 バランス画面で、マイクと鍵盤演奏音などの音量バランスを調節します(36ページ)。

マイクを外す

- 1 本体底面の端子パネルの[INPUT VOLUME]を最小にします。
- 2 本体底面の端子パネルの[MIC./LINE IN]端子から、マイクを外します。

NOTE

マイクは、ダイナミックマイクフォンをお使いください。

NOTE

楽器本体の電源をオフにする前にも[INPUT VOLUME]を最小にしてください。

歌声にハーモニーを付ける(ボーカルハーモニー)

ボーカルハーモニー機能を使うことで、マイクに入力された歌声にハーモニーを付けることができます。

- 1 マイクを楽器に接続します(68ページ)。
- 2 ボーカルハーモニー画面を表示させます: [メニュー] → [ボーカルハーモニー]



6-1 (モードが「ボコーダー」または「ボコーダーモノ」の場合)

- 3 ハーモニーが「オン」になっていることを確認します。
- 4 ボーカルハーモニー名をタッチして、ボーカルハーモニー選択画面を表示させます。
- 5 ボーカルハーモニータイプを選びます。
ボーカルハーモニーには、下記3つのモードがあり、ボーカルハーモニーを選ぶと自動的にモードが選ばれます。

モード

コーダル	コード鍵域で弾いたコード([スタイル オン/オフ]ボタンがオンの場合)または左手鍵域で弾いたコード([スタイル オン/オフ]ボタンがオフでレフトパートがオンの場合)、ソング中のコード情報に従って、ハーモニー音が付きます。
ボコーダー	マイク音声、鍵盤演奏音やソングのノートデータのとりのピッチで鳴ります。
ボコーダーモノ (CVP-609のみ)	ボコーダーと同様ですが、後着優先で同時に1つの音だけが鳴ります。
自動(ボコーダー/コーダル) (CVP-605のみ)	コードデータが入っているソングを再生している場合、またはスタイルやレフトパートがオンの場合はコーダルに、その他の場合はボコーダーに、自動設定されます。

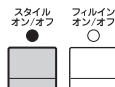
NOTE

左に示した画面は、CVP-609でモードを「ボコーダー」または「ボコーダーモノ」に設定した場合の画面です。モードを「コーダル」に設定した場合や、CVP-605では異なります。

6 選んだボーカルハーモニーのモードによって、次のように操作します。

■ モードが「コーダル」の場合:

6-1 [スタイルオン/オフ]ボタンがオンになっていることを確認します。



6-2 スタイルを再生するか、コードデータの入ったソングを再生して、マイクに向かって歌います。

コード情報に従って、歌声にハーモニーが付きます。

■ モードが「ボコーダー」または「ボコーダーモノ」の場合:

6-1 必要に応じて、キーボードの設定(オフ、Upper、Lower)を変更します。

Upper (アッパー)では右側の鍵盤を、Lower (ロワー)では左側の鍵盤を弾いてボコーダーをコントロールします。オフを選ぶと、鍵盤演奏によるボコーダーのコントロールは行ないません。

6-2 鍵盤でメロディーを弾くか、ソングを再生して、マイクに向かって歌います。

鍵盤演奏音やソングのノートデータのピッチで、ボコーダーが機能します。

カラオケをするのに便利な機能

- 歌詞を表示する(58ページ)
- 音の高さを調整する(36、62ページ)
- ボーカルパートを消音する(62ページ)

マイクを使ってトークする

コンサートで、歌と歌の合間にトークを入れたい場合などに、ワンタッチでトーク用の設定に切り替えることができます。トーク用の設定にするには、ボーカルハーモニー画面の左側にある[トーク]をタッチしてオンにします。ボーカルハーモニー用の設定に戻すには、[ボーカル]をタッチします。



NOTE

マイク設定画面([メニュー] → [マイク設定])では、トーク用のマイク設定を調整することができます。

弾きたい曲に合ったパネル設定を呼び出す (ミュージックファインダー)

弾きたい曲に合ったパネル設定(ボイスやスタイルなどの設定)がわからない場合、ミュージックファインダー機能を使うと便利です。ミュージックファインダーに登録されているさまざまな「レコード」から曲名を選ぶことにより、弾きたい曲に合ったパネル設定を呼び出すことができます。

また、いろいろな場所に保存されたソングやスタイルをミュージックファインダーに登録すれば、曲名やスタイル名を指定するだけで、簡単に呼び出せます。


レコード(パネル設定)を読み込む

工場出荷時にミュージックファインダーに入っているのはサンプルのレコードです。ミュージックファインダー機能を便利に使うために、ヤマハのウェブサイトを提供されている、ミュージックファインダーのレコードを本体に読み込んでおくことをおすすめします。

- 1 コンピューターを使って、下記ウェブサイトから、ミュージックファインダーのレコードが入ったファイル(.mf)をUSBフラッシュメモリーにダウンロードします。
<http://download.yamaha.com/jp/>
- 2 ミュージックファインダーのパネル設定ファイルが入ったUSBフラッシュメモリーを、楽器本体の[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 3 ミュージックファインダー画面を表示させます: [メニュー] → [ミュージックファインダー]



4

- 4  (読み込み)アイコンをタッチして、ファイル選択画面を表示させます。
- 5 USBフラッシュメモリー内の該当するパネル設定ファイルを選ぶと、レコードの置き換え/追加を選ぶメッセージが表示されます。
- 6 元のレコードを残したまま選択したファイルのレコードを追加したい場合は[追加]を、すべて置き換えたい場合は[置換]を、タッチします。
- 7 確認を求めるメッセージが表示されたら、[はい]をタッチします。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

レコード(パネル設定)を選ぶ

- 1 ミュージックファインダー画面を表示させます: [メニュー] → [ミュージックファインダー]



- 2 呼び出したいレコードをタッチします。

選択されたレコードに登録されているパネル設定が呼び出されます。スタイルを含むレコードを選んだ場合は、該当スタイルが選択されるだけでなく、スタイルオンやシンクロスタートオンの設定もされ、すぐにスタイル演奏が始められる状態になります。レコードを探しにくい場合は、下記の並び替え機能を活用してください。

レコードを表示する順番を並び替える

並び替えバーの項目のどれかをタッチすることで、レコードの表示順を変えることができます。同じ項目をタッチすることで、昇順か降順かが切り替わります。

- **曲名:** 曲名順に並び替えます。
- **スタイル:** スタイル名順に並び替えます。
- **拍子:** 拍子の順で並び替えます。
- **J:** テンポの順で並び替えます。
- **★:** ここをタッチすると、お気に入り登録したものだけが表示されます。もう一度タッチすると、すべて表示されます。お気に入り登録するには、各レコードの[☆]をタッチします。お気に入りから削除するには、[★]をタッチします。

- 3 コード鍵域(46ページ)でコードを押さえながら、右手でメロディーを弾いてみましょう。

NOTE

スタイル再生中に別のレコードを選んだときに、スタイルのテンポが変わらないようにしたい場合は、[メニュー] → [スタイル設定] → [スタイル変更時の挙動]で、テンポをホールドまたはロックにします。ロックにすると、再生中だけでなく停止中もスタイルのテンポは切り替わりません。

レコード(パネル設定)を検索する

ミュージックファインダーの検索機能を使って、曲名やキーワードからレコードを検索できます。

- 1 ミュージックファインダー画面を表示させます: [メニュー] → [ミュージックファインダー]



- 2 検索ボックスをタッチして、文字入力画面を表示させます。
- 3 検索キーワードを入力して(32ページ)、検索をスタートさせます。
複数のキーワードを入力するには、スペース(空白)で区切って入力します。
検索が終わると、検索結果が表示されます。レコードが表示されない場合は、別のキーワードを入力して試してみましょう。
- 4 好きなレコードを選びます。
検索ボックス内にある[×]をタッチすると、入力したキーワードが削除され、すべてのレコードが表示されます。
- 5 コード鍵域(46ページ)でコードを押さえながら、右手でメロディーを弾いてみましょう。

ソングやスタイルをレコードとして登録する

本体メモリーやUSBフラッシュメモリーのいろいろな場所に保存されたソングやスタイルも、ミュージックファインダーのレコードとして登録すれば簡単に呼び出せます。

- 1 ソングまたはスタイル選択画面で、登録したいファイルを選びます。



2

- 2 **+** (追加) をタッチすると、レコード作成画面が表示されます。

必要に応じて、曲名やキーワードなどを変更できます。レコード作成画面について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

- 3 [作成] をタッチすると、手順1で選んだスタイルまたはソングが登録されたレコードが作られます。

- 4 ミュージックファインダー画面に、登録したレコードが表示されていることを確認します。

ソングを登録したレコードは、スタイル欄に「(MIDIソング)」または「(オーディオソング)」と表示されます。

ミュージックファインダーに登録したソングやスタイルを呼び出す

「レコード(パネル設定)を選ぶ」(72ページ)や「レコード(パネル設定)を検索する」(73ページ)と同じ方法で、登録したソングやスタイルを呼び出すことができます。

NOTE

- 登録したいデータがUSBフラッシュメモリーに入っている場合は、そのデータのあったUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。

NOTE

登録を中止するときは、[キャンセル]をタッチします。

NOTE

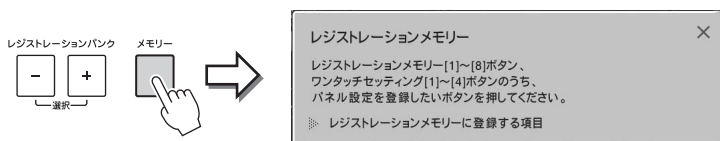
USBフラッシュメモリーに入っているソングまたはスタイルをレコードに登録した場合は、あとでレコードを選ぶときに同じUSBフラッシュメモリーを「USB TO DEVICE」端子に接続しておく必要があります。

パネル設定を登録する(レジストレーションメモリー)

レジストレーションメモリーは、ボイスやスタイルなどに関するパネル設定をボタンに登録し、演奏中でもワンタッチで呼び出せる機能です。ボタンに登録したパネル設定は、まとめて1つのバンク(ファイル)として保存します。

パネル設定を登録する

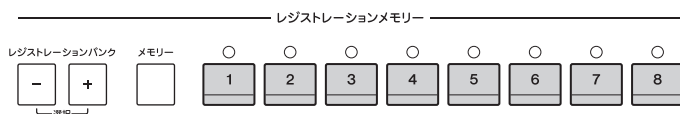
- 1 ボイスやスタイルなどのパネル設定を、登録したい状態にします。
レジストレーションメモリーで登録できる内容については、別冊「データリスト(パラメーターチャート)」をご覧ください。
- 2 レジストレーションメモリー [メモリー] ボタンを押して、レジストレーションメモリー画面を表示させます。



登録する項目を指定する

画面左下にある[▶]をタッチすると、登録できる項目のリストが表示されます。登録したい項目にタッチしてチェックマークを付けてから、手順3に進みます。

- 3 レジストレーションメモリー [1]~[8] ボタンのうち、パネル設定を登録したいボタンを押します。
パネル設定が登録されると、ランプが赤に点灯します。



ランプの色について

- ランプ(赤)点灯: パネル設定を登録済みで、現在選ばれています。
- ランプ(緑)点灯: パネル設定を登録済みで、現在選ばれていません。
- ランプ消灯: パネル設定が未登録です。

- 4 ほかのボタンに別のパネル設定を登録するときは、手順1~3をくり返します。
保存したパネル設定は、レジストレーションメモリー [1]~[8] ボタンを押すことで呼び出せます。

注記

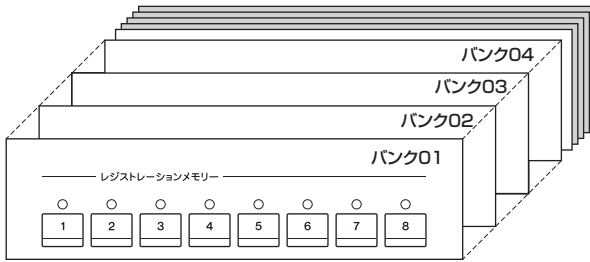
ランプが消灯しているボタンに登録することをおすすめします。ランプが点灯しているボタンは、すでにパネル設定が登録されているボタンです。ランプが点灯しているボタンにパネル設定を登録すると、そのボタンに登録されていたデータは消え、新しい設定に書き換わります。

NOTE

- 登録したパネル設定は、電源を切っても保持されます。登録したパネル設定を一度に消去する場合は、いちばん右のBの鍵盤(B6)を押しながら電源をオンにします。
- 登録したパネル設定のうち、呼び出したい項目を指定できます ([メニュー] → [レジストフリーズ])。

登録したパネル設定をファイルとして保存する

レジストレーションメモリーでは、ボタンに登録した8個のパネル設定をまとめて1つのバンク(ファイル)として保存します。




- 1 ホーム画面の右上の角にある[▶]をタッチしてレジストレーションエリアを表示させ、レジストレーションエリアをタッチして、バンク選択画面を表示させます。



NOTE

レジストレーションメモリーのバンクは、CVP-609/605/601で互換性があります。ただし、それぞれの機器の仕様などにより、完全な互換性が実現できない場合があります。

バンク選択画面は、レジストレーションバンク[-]と[+]ボタンを同時に押して表示させることもできます。

- 2  (保存)をタッチして、バンクを保存します。
保存の手順については、27ページをご覧ください。

登録したパネル設定を呼び出す

ファイルとして保存したレジストレーションメモリーは、レジストレーションバンク[-]/[+]ボタンで順に呼び出したり、以下の方法で呼び出したりできます。

- 1 バンク選択画面を表示させます(76ページ手順1)。
- 2 画面をタッチしてバンクを選びます。
レジストレーションバンク[-]/[+]ボタンで選ぶこともできます。
- 3 レジストレーションメモリー [1]~[8]ボタンのうち、緑色に点灯しているボタンの中から1つを選んで押します。

レジストレーションメモリーに登録された内容を確認する

レジストレーションメモリー [1]~[8]ボタンに、どんなボイス/スタイルが登録されているかを確認できます。

- 1 バンク選択画面を表示させ、目的のバンクを選びます。
- 2 ⓘ(情報)をタッチして、レジストレーションバンク情報画面を表示させます。
レジストレーションバンク情報画面には、ボイスの内容を確認する画面と、スタイルの内容を確認する画面があります。画面を切り替えるには、▶/[◀]をタッチします。

レジストレーション	レフト	メイン	レイヤー
1 New Regist	ムー	コンサート ギター	バダヤ
2 New Regist	ムー	ポップ ソプラノ	ジャズ ソロ ギター
3 New Regist	ムー	コンサート グランド	オーケストラ フルード
4 New Regist	ムー	ブロードウェイ ストリン	ストリングス mf
5 New Regist	ムー	ナイロン弦 ギター	バダヤ
6 New Regist	ムー	ソプラノ サックス	ジャズ ソロ ギター
7 New Regist	ムー	ポップ グランド 2	オーケストラ フルード
8 New Regist	ムー	リアル ストリングス	リアル ストリングス mf

レジストレーション番号を選んで、✎(名前)をタッチすると名前を変更できます。

🗑(削除)をタッチすると削除できます。

レジストレーションメモリーのデータに名前を付ける

たくさんの設定をレジストレーションメモリーに登録すると、すぐに呼び出したいのになかなか見つけれなくて困ることがあるかもしれません。レジストレーションメモリーのバンクと、レジストレーションの設定それぞれにつき、わかりやすい名前を付けておくと便利です。

NOTE

- USBフラッシュメモリーのソング、スタイル、テキストを登録してある場合は、登録したデータが入っているUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続してから呼び出してください。
- USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(85ページ)をお読みください。
- [メニュー] → [レジストレーション]で8つのパネル設定を呼び出す順番を指定して、ペダルで呼び出すことができます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

オフになっているパートのボイス名は、グレー表示されます。

音量バランスや音色などを調節する(ミキサー)

ミキサーとは、複数の音声信号をまとめて、音声バランスやステレオ定位、エフェクトのかかり具合などを調節する装置です。クラビノーバにはミキサーの機能が内蔵されているので、鍵盤パート間やソング/スタイルチャンネルごとの音量バランスや音色調節ができます。

ミキサーの基本操作

1 ミキサー画面を表示させます: [メニュー] → [ミキサー]



2 バランス調節をしたいパートのタブ(画面)を選びます。

パネル	この楽器で演奏できるすべてのパート（ソング、スタイル、マイク入力音、鍵盤メインパート、鍵盤レイヤーパート、鍵盤レフトパート）間のバランスを調節します。
スタイル	スタイルを構成する各パート間のバランスを調節します。 <ul style="list-style-type: none"> • リズム1、リズム2: スタイルの中心となるリズムパートです。通常、ドラムやパーカッションのパターンが入っています。 • ベース: ベースパートです。 • コード1、コード2: ピアノやギターなどの音で作られる、コード伴奏のパートです。 • パッド: ストリングス、オルガンなどの音を使った、長く伸びるコードの響きを付けるパートです。 • フレーズ1、フレーズ2: パンチの効いたプラスセクションやコードアルペジオなど、スタイルを装飾するパートです。
ソングCh1-8 / 9-16	MIDIソングを構成する各パート(チャンネル)間のバランスを調節します。MIDIソングが選ばれているときだけ有効です。
マスター	この画面では、パート間のバランス調整ではなく全体のサウンド(オーディオソングを除く)の音質を調整します。

3 設定したい項目があるタブ(画面)を選びます。

■ 手順2で「マスター」以外のパートを選んだ場合

フィルター	音のハーモニックコンテンツ(レゾナンス効果)や明るさを調節します。
EQ	イコライザーの設定値を編集して、音質や音色を補正します。
エフェクト	各パートにかけるエフェクトの種類を選び、エフェクトをかける深さを設定します。
コーラス/ リバーブ	各パートにかけるコーラスやリバーブの種類を選び、コーラスやリバーブをかける深さを設定します。
パン/音量	各パートのパン(ステレオ定位)や音量バランスを調節します。

■ 手順2で「マスター」を選んだ場合

コンプレッサー (CVP-609のみ)	マスターコンプレッサーのオン/オフをしたり、タイプを選んだり、設定を変更して保存したりできます。
EQ	マスター EQタイプを選んだり、設定を変更して保存したりできます。

4 各項目の値を調節します。


5 ミキサー画面で行なったさまざまな設定を保存します。

■ 「パネル」画面での設定を保存するには：

レジストレーションメモリーに登録します(75ページ)。


■ 「スタイル」画面での設定を保存するには：

スタイルファイルとしてユーザーメモリーやUSBフラッシュメモリーに保存します。あとで呼び出すときは、ここで保存したスタイルを選びます。

1. 操作画面を表示させます: [メニュー] → [スタイルクリエイター]
2.  (保存)をタッチして、保存の作業をする画面(スタイル選択画面)を表示させ、スタイルファイルとして保存します(27ページ)。


■ 「ソングCh1-8/9-16」画面での設定を保存するには：

ソングデータの一部として記憶(セットアップ)させてから、ソングをユーザーメモリーまたはUSBフラッシュメモリーに保存します。あとで呼び出すときは、ここで保存したソングを選びます。

1. 操作画面を表示させます: [メニュー] → [ソングクリエイター] → [チャンネルエディット]
2. [セットアップ]をタッチします。
3. [実行]をタッチして、セットアップを実行します。
4.  (保存)をタッチして、保存の作業をする画面(ソング選択画面)を表示させ、ソングファイルとして保存します(27ページ)。

■ 「マスター」画面での設定を保存するには：

マスターコンプレッサータイプ、マスター EQタイプとして、それぞれ最大5つの設定を、楽器本体内に保存できます。あとで呼び出すときは、各画面右上で該当するタイプを選択します。

1. 「コンプレッサー」画面または「EQ」画面で、 (保存)をタッチします。
2. 保存先をUSER1~USER5から選び、[保存]をタッチします。
3. 文字入力画面(32ページ)が表示されたら、必要に応じて名前を変更し、[OK]をタッチするとデータが保存されます。

NOTE

値の表示を長押しすると、初期設定に戻せます。

スタイルやソングをチャンネルごとにオン/オフする

ミキサー画面(78ページ)では、スタイルやソングをチャンネルごとに再生のオン/オフができます。

- 1 ミキサー画面で[スタイル]、[ソングCh1-8]または[ソングCh9-16]タブを選びます。
- 2 オン/オフしたいチャンネルをタッチします。



1チャンネルだけ再生する場合は、再生したいチャンネルを、緑に変わるまで長押しします。解除するには、緑のチャンネルをタッチします。

各チャンネルのボイスを変更する

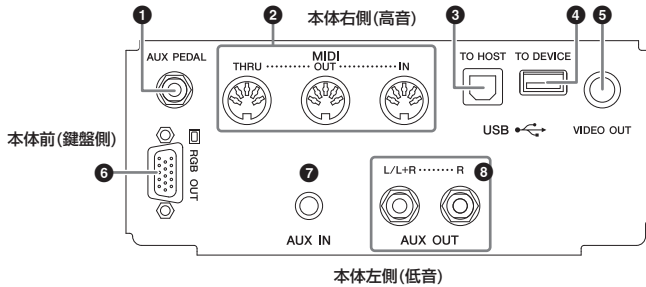
各チャンネルのボイスを変更できます。各チャンネル表示の下にある楽器のアイコンをタッチすると、ボイス選択画面が表示されるので、ボイスを選びます。

- 3 必要に応じて、その他の設定をしてスタイルまたはソングファイルとして保存します(79ページ手順5)。

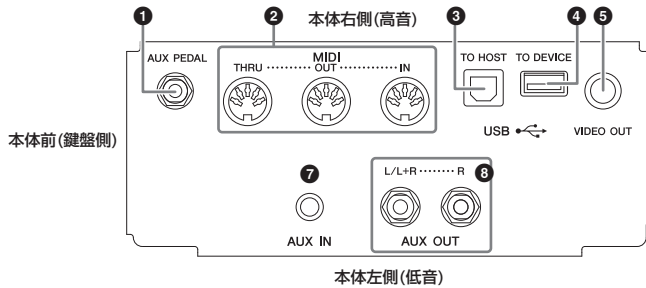
他の機器と接続して演奏する

端子パネル

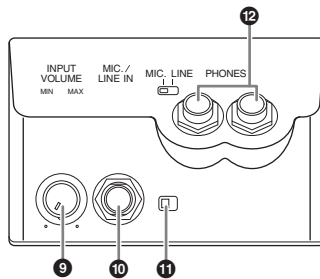
CVP-609



CVP-605



CVP-609/605



- | | | | |
|---------------------------|------------|---------------------------|------------|
| ① [AUX PEDAL] 端子..... | 84ページ | ⑦ [AUX IN] 端子..... | 82ページ |
| ② MIDI 端子..... | 87ページ | ⑧ [AUX OUT [L/L+R]/[R] 端子 |82ページ |
| ③ [USB TO HOST] 端子..... | 87ページ | ⑨ [INPUT VOLUME] つまみ..... | 68ページ |
| ④ [USB TO DEVICE] 端子..... | 85ページ | ⑩ [MIC./LINE IN] 端子..... | 68ページ |
| ⑤ [VIDEO OUT] 端子..... | 83ページ | ⑪ [MIC. LINE] 切り替えスイッチ |68ページ |
| ⑥ [RGB OUT] 端子(CVP-609のみ) |83ページ | ⑫ [PHONES] 端子..... | 17ページ |

NOTE

端子パネルの位置については、「各部の名称」(13ページ)でご確認ください。

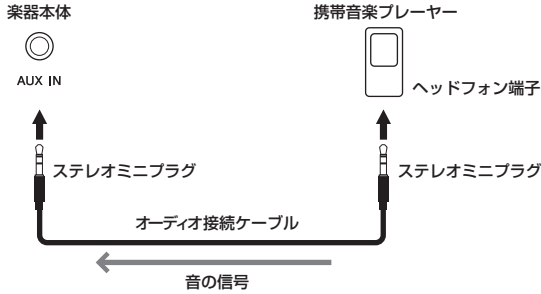
⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切ったうえで行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

外部オーディオ機器と接続する([AUX IN]端子、AUX OUT [L/L+R]/[R]端子)

楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を出す

楽器の[AUX IN]端子と、携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドフォン端子を接続すると、楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を鳴らせます。

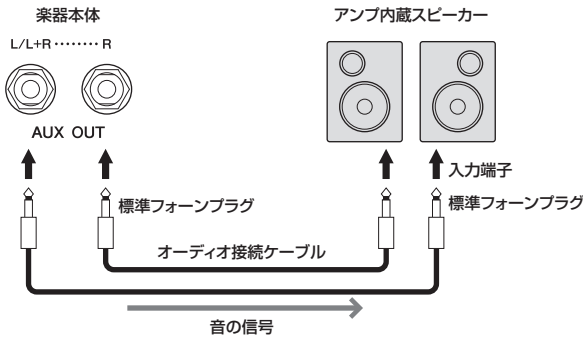


入力音のノイズをカットする(ノイズゲート)

[AUX IN]端子からの入力音の余分なノイズをカットする機能をノイズゲートといいます。工場出荷時では、この機能がオンになっていますが、本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音をノイズとみなしてカットしてしまうことがあるので、その場合は、ノイズゲートをオフにしてください([メニュー] → [ユーティリティ] → [スピーカー/外部との接続] → [AUX Inノイズゲート])。

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす

AUX OUT端子を使って楽器をアンプ内蔵スピーカーと接続すると、より大きな音で迫力ある演奏を楽しめます。[MIC./LINE IN]端子からの入力音も一緒に出力されます。



NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

注記

外部機器の損傷を防ぐため、外部機器の音を楽器本体から出力するときは、最初に外部機器、次に楽器本体の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に楽器本体、次に外部機器の順に、行なってください。

NOTE

[AUX IN]端子からの入力音は、楽器の[音量]ダイヤルで音量調節できます。

NOTE

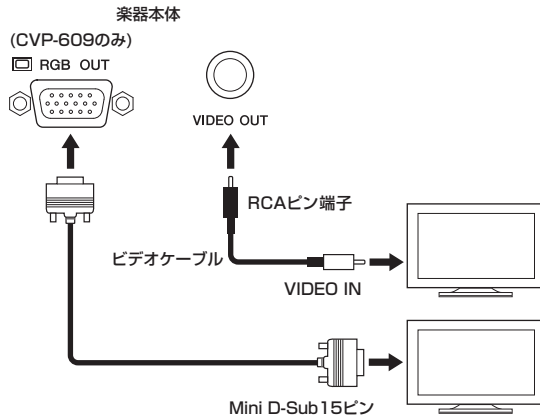
モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合)には、[L/L+R]端子をご使用ください。

注記

- 外部機器の損傷を防ぐため、楽器本体の音を外部機器に出力するときは、最初に楽器本体、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に楽器本体の順に行なってください。オートパワーオフ機能(15ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手動で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- [AUX OUT]端子から出力した音を、[AUX IN]に戻さないでください([AUX OUT]から外部オーディオ機器に接続した場合、その機器からふたたび楽器本体の[AUX IN]に接続しないでください)。楽器本体の[AUX IN]から入力された音はそのまま[AUX OUT]から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

楽器本体の画面をテレビなどの外部モニターに映し出す ([VIDEO OUT]端子、[RGB OUT]端子)

楽器の[VIDEO OUT]端子を使ってテレビなどの外部モニターと接続することで、楽器本体の歌詞やテキストをテレビに映し出せます。CVP-609では[RGB OUT]端子で接続することもできます。



⚠ 注意

目の疲れや視力の低下を引き起こす原因となりますので、長時間テレビやビデオモニターを見続けられないようにしてください。定期的に休憩を取ったり、焦点を遠くの物に合わせるなどして、目を休めてください。

信号方式と表示内容を設定する

- 1 設定画面を表示させます: [メニュー] → [ユーティリティ] → [スピーカー / 外部との接続]
- 2 信号方式と表示方式を設定します。

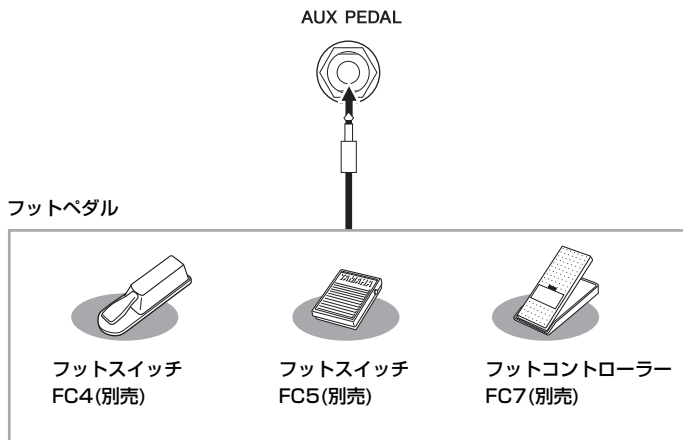
モニタータイプ	テレビの信号方式を選びます。テレビの対応している規格に応じて、NTSCかPALかを選びます。初期値は、日本での標準であるNTSC方式に設定されています。(CVP-609の場合)外部モニターと接続している場合は、RGBを選びます。
表示内容	画面に表示する内容を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> • 歌詞/テキスト: 楽器本体の画面表示にかかわらず、テレビ/外部モニターには歌詞またはテキスト(最後に表示したどちらか)が表示されます。 • LCD: 楽器本体に表示されている画面がそのままテレビ/外部モニターに表示されます。

NOTE

- NTSCを選ぶと、表示内容によっては、画面の左右や下部が表示されないことがあります。
- 解像度の設定ができないモニターをお使いの場合、モニタータイプが正しく選択されていても出力できないことがあります。
- 画面切り替え時の表示効果は、外部モニターには表示されません。

フットスイッチやフットコントローラーを接続する ([AUX PEDAL]端子)

[AUX PEDAL]端子に別売のフットスイッチ(FC4またはFC5)やフットコントローラー(FC7)を接続すると、足を使ってさまざまな機能をコントロールできます。機能のオン/オフを切り替えるときにはフットスイッチを、ボリュームなどの連続した値をコントロールするときにはフットコントローラーをお使いください。



■ <例1> フットコントローラーで鍵盤演奏音のボリュームをコントロールする

フットコントローラー FC7を[AUX PEDAL]端子に接続します。工場出荷状態では、特別な設定は必要ありません。

■ <例2> フットスイッチでソング再生をコントロールする

フットスイッチFC4またはFC5を[AUX PEDAL]端子に接続します。

[メニュー] → [アサインブル] → [ペダル]で、AUXペダルにソング再生スタート/ストップの機能を割り当てます。

マイクやギターをつないで使う([MIC./LINE IN]端子)

[MIC./LINE IN]端子(標準フォーン端子)にマイクやギターなどを接続すると、楽器本体のスピーカーから音を出すことができます。接続の方法は、68ページをご覧ください。

接続する機器により、[MIC. LINE]切り替えスイッチを切り替える必要があります。出力レベルが低い機器(マイク、ギター、ベースなど)を接続する場合は、[MIC.]側に設定してください。出力レベルが高い機器(シンセサイザー、キーボード、CDプレーヤーなど)を接続する場合は、[LINE]側に設定してください。

注記

フットスイッチやフットコントローラーの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。

USB機器を接続する([USB TO DEVICE]端子)

[USB TO DEVICE]端子には、USBフラッシュメモリーや付属のUSB無線LANアダプターを接続します。楽器本体で設定した内容や制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり(27ページ)、USB無線LANアダプターを使ってiPadなどと無線通信(86ページ)したりできます。

[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意

[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- 付属のUSB無線LANアダプター

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

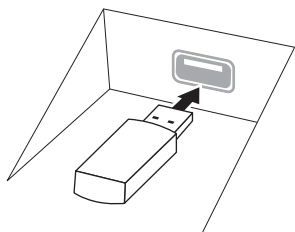
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/>

NOTE

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- トップパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続している場合は、キーカバーを開ける前に外してください。USB機器を接続したままキーカバーを閉じると、USB機器がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を開けて行ってください。

NOTE

USBケーブルで接続する場合、3メートル未満のケーブルをご使用ください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、2台までです。

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(86ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機では正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。特に複数のUSBフラッシュメモリーを接続しているときは、ご注意ください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化)

[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続したときに、「USBメモリーがフォーマットされていません」と表示されることがあります。その場合は、フォーマットを実行してください。

- 1 フォーマットするUSBフラッシュメモリーを楽器の[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 設定画面を表示させます: [メニュー] → [ユーティリティ] → [USBメモリー]



- 3 フォーマットするUSBフラッシュメモリーを選びます。
接続した順にUSB1、USB2などと表示されます。
- 4 [フォーマット]をタッチして、フォーマットを実行します。

iPhone/iPadと接続する([USB TO DEVICE]端子、[USB TO HOST]端子、MIDI端子)

付属のUSB無線LANアダプターを[USB TO DEVICE]端子に接続すると、iPhoneやiPadなどのスマートデバイスと無線通信ができます。また、別売りのi-UX1を使って楽器の[USB TO HOST]端子とスマートデバイスを有線接続したり、別売りのi-MX1を使って楽器のMIDI端子とスマートデバイスを有線接続することもできます。CVP-609/605に対応のアプリケーションを使うことにより、楽器をもっと便利に楽しむことができます。

接続のしかたについては、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください。

対応のスマートデバイスやアプリケーションについては、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。

<http://jp.yamaha.com/kbdapps/>

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

NOTE

- [USB TO DEVICE]端子を使う前に、「[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意」(85ページ)をお読みください。
- iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPhone/iPadの機内モードをオンにしてからWi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。

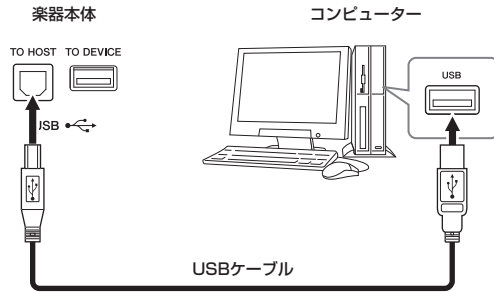
注記

iPhone/iPadを不安定な場所に置かないでください。iPhone/iPadが落下して破損するおそれがあります。

コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子)

USBケーブルを使って楽器の[USB TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとMIDIデータをやり取りしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。

コンピューターとの接続方法など、詳しくはウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。



注記

USBケーブルは、ABタイプのものでご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。

NOTE

- 楽器本体は、USB接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 楽器とコンピューターをUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- 使用するコンピューターやシーケンズソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

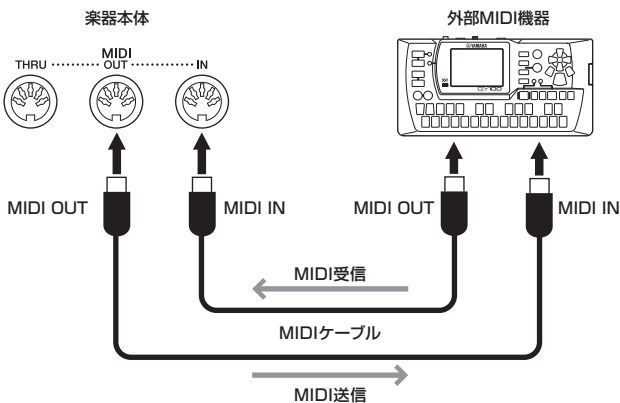
外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)

MIDI端子を使用して、外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)と接続できます。MIDIケーブルをご使用ください。

MIDI IN: MIDIデータを受信する端子です。

MIDI OUT: MIDIデータを送信する端子です。

MIDI THRU: MIDI INで受信したデータをそのまま出力する端子です。複数の機器にMIDIデータを供給する場合などに使います。



MIDIに関する楽器本体の設定(送信/受信チャンネルや、送受信するデータの内容など)は、[メニュー] → [MIDI]で行ないます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

ヤマハマニュアルライブラリー(3ページ)で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。

メニュー画面機能一覧

ここでは、メニュー画面上の各アイコンをタッチするとどんな機能が使えるか(どんな設定ができるか)を簡単に紹介します。一部の機能のみ、本書(下記ページ)で説明しています。各機能について詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

メニュー		説明	ページ
	テンポ	MIDIソングやスタイル、メトロノームのテンポを調節します。テンポ[-]/[+]ボタンや[タップ]ボタンと同様の操作が画面でできます。	34
	トランスポーズ	楽器全体の音、鍵盤演奏音、またはMIDIソングの再生音の音の高さを半音単位で調整します。	36
	スプリットポイント/フィンガリングタイプ	スプリットポイントを設定したり、コードの認識方法(フィンガリングタイプ)を変えたりします。	42、52
	コードチューター	コードを指定すると、コードの押さえ方の一例が表示されます。	—
	バランス	鍵盤演奏音(メイン、レイヤー、レフト)、スタイルやソングの再生音、マイク出力音の音量バランスを調節します。	36
	フィルター	音のハーモニックコンテンツ(レゾナンス効果)や明るさを調節します。	78
	EQ	イコライザーの設定値を編集して、音質や音色を補正します。	
	エフェクト	各パートにかけるエフェクトの種類を選び、エフェクトをかける深さを設定します。	
	コーラス/リバーブ	各パートにかけるコーラスやリバーブの種類を選び、コーラスやリバーブをかける深さを設定します。	
	パン/音量	各パートのパン(ステレオ定位)や音量バランスを調節します。	
	(マスター)コンプレッサー	マスターコンプレッサーをオン/オフしたり、編集したりします。	
	(マスター)EQ	マスターEQを編集します。	
	譜面	選ばれているMIDIソングの譜面を表示します。	57
	歌詞	選ばれているMIDIソングの歌詞を表示します。	58
	テキスト表示	コンピューターで作成したテキストファイルを表示します。	59
	キーボードハーモニー	右手鍵域での演奏にハーモニー効果を付けます。ハーモニーのタイプなどの設定ができます。	—
	マイク設定	マイクに関する設定をします。	—
	ボーカルハーモニー	歌声にさまざまなハーモニーを付けます。ハーモニーの設定を変更して、オリジナルのボーカルハーモニーとして保存できます。	69
	ミュージックファインダー	弾きたい曲に合ったパネル設定(レコード)を呼び出します。また、レコードの作成/編集ができます。	71
	レジストレーションシーケンス	レジストレーションメモリーをペダルを使って呼び出す順番を指定します。	—
	レジストレーションフリーズ	レジストレーションメモリーに保存したパネル設定のうち、呼び出たくない項目を指定します。	—
	ペダル	ペダルに割り当てる機能を指定します。	—
	アサインナブル	アサインナブル[1]~[4]ボタンに割り当てる機能を指定します。	26
	ボイスエディット	内蔵のボイスを編集してオリジナルのボイスを作ります。オルガンフルートボイスを選んだときと、それ以外のボイスを選んだときでは、設定画面が異なります。	44
	スタイルクリエイター	内蔵のスタイルを編集したり、チャンネルごとに自分で録音したりして、オリジナルのスタイルを制作します。	—

メニュー		説明	ページ	
	ソングクリエーター	録音済みのソングを編集して別のソングを作ることができます。	—	
	ボイス設定	チューン	鍵盤パート(メイン/レイヤー /レフト)ごとにピッチの設定をします。	
		ピアノ	ピアノボイスに関する設定をします。	
		ボイスセット	ボイスに含まれる設定(エフェクトなど)のうち、ボイスを選んだときに呼び出したいくない項目を指定します。	
		設定	ボイスボタンを押してボイス選択画面を開いたときのボイスの切り替わり方を設定したり、SA2ボイスを選んだときにアーティキュレーション効果を付けるかどうか(CVP-609のみ)を設定します。	
	スタイル設定	設定	ストップアカンパニメントやOTSリンクタイミングなど、スタイル再生に関する設定をします。	
		スタイル変更時の挙動	スタイルを変更したときの、スタイルの状態(セクションやテンポなど)を設定します。	
	ソング設定	ガイド	ガイド機能の種類を選んだり、鍵盤ガイドランプの設定をします。	
		各パートのCh	MIDIソングを再生するときに、右手パートと左手パートでどのチャンネルを鳴らすかを設定します。	
		歌詞	歌詞画面で使用する言語を選びます。	
		再生	くり返し再生やパフォーマンスアシスタント機能など、ソングの再生に関する設定をします。	
		録音	MIDIソングの再録音に関する設定や、オーディオ録音のファイルフォーマットの設定をします。	
	チューニング	マスターチューン	鍵盤全体の音の高さ(ピッチ)を約0.2Hz単位で調整します。	
		スケールチューン	音律(調律法)を変えたり、ノート(鍵盤)ごとにピッチを調整したりします。	
	鍵盤設定	鍵盤のタッチ感度を変えたり、レフトホールドをオン/オフします。	35	
	メトロノーム設定	メトロノーム	メトロノームの音量や音色、拍子を設定します。	
		タップテンポ	[タップ]ボタンを押したときに鳴る音の音量や音色を設定します。	
	MIDI設定	システム	MIDIシステムメッセージに関する設定をします。	
		送信	MIDI送信に関する設定をします。	
		受信	MIDI受信に関する設定をします。	
		オンベースノート	MIDI受信ノートデータによる、スタイル再生用ベース音の指定をします。	
		コード検出	MIDI受信ノートデータによる、スタイル再生用コードタイプの指定をします。	
	ユーティリティ	スピーカー / 外部との接続	本体スピーカーや外部接続に関する設定をします。	82
		画面	タッチパネルの補正など画面に関する設定をします。	—
		パラメーターロック	レジストレーションメモリーでパネル設定を切り替えたときに、特定の設定だけ変わらないようにします。	—
		USBメモリー	接続したUSBフラッシュメモリーの空き容量を確認したり、フォーマットしたりします。	86
		システム	楽器のバージョンを確認したり、表示言語など、楽器の基本設定をしたりします。	16
		ファクトリーリセット / バックアップ	楽器の初期化やデータのバックアップを行ないます。	37
	無線LAN設定	楽器とiPadなどのスマートデバイスを無線LANで接続するための設定をします。このアイコンは付属の無線LANアダプターを接続した場合のみ表示されます。	—	

CVP-609の組み立て方

⚠ 注意

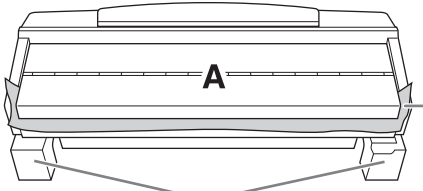
- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。

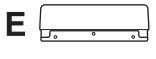
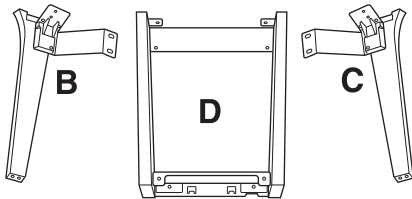


すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。

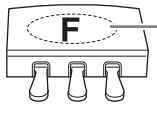
組み立て中にキーカバーが開かないように、キーカバーを上から押さえてシートをしっかり挟み込んでください。



A 底面にあるスピーカーボックスの破損を防ぐため、Aはスチロールパッドの上に置いてください。また、スチロールパッドはスピーカーボックスを避けて配置してください。



カバー用ネジ
(4×10mm): 2本



電源コード

裏側にペダルコードが束ねてあります。ペダルには、工場出荷時にビニール袋をかぶせてあります。GP レスポンスダンパーペダルの効果を最大にするため、ビニール袋を外してください。



短いネジ(5×18mm): 10本



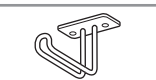
細いネジ(4×20mm): 3本



長いネジ(5×30mm): 4本



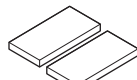
ワッシャー: 4個



ヘッドホンハンガー (4×10mm): 2本



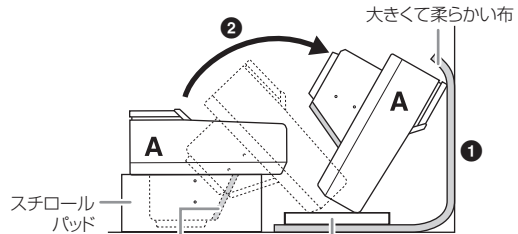
細いネジ
(4×10mm): 2本



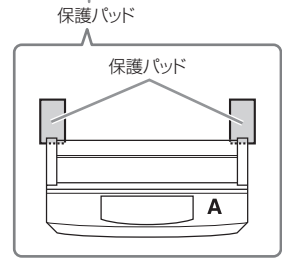
保護パッド: 2個

1 Aを壁に立てかけます。

- 1 毛布などの柔らかい布を広げ、床や壁を保護します。
- 2 キーカバーを閉めたまま、鍵盤側が下になるように壁に立てかけます。



注記
スピーカーネットには手をかけないでください。スピーカーが破損するおそれがあります。



⚠ 注意

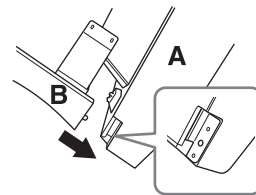
- 指をはさんだりしないようご注意ください。

注記

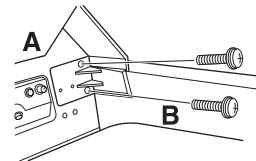
- 譜面立ての上側は固定されていません。譜面立てが倒れないように支えながら作業してください。
- 本体を逆さにしたり、背面側を下にして置かないでください。

2 BとCをAに固定します。

- 1 Bの突起をAの穴に差し込みます。

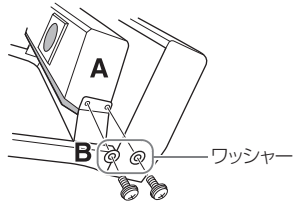


- 2 BをA底面に長いネジ(5×30 mm) 2本で固定します。



AとBの間にすき間ができないよう、BをAの外側から内側に押さえつけながら固定します。

- ③ BをAのスピーカーボックスに短いネジ(5×18 mm) 2本で固定します。

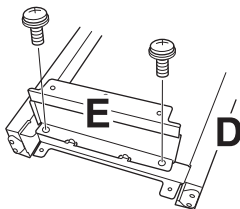


ネジの位置が合わない場合は、ほかのネジをゆるめて、Bの位置を調整してください。

- ④ Cも同様に固定します。

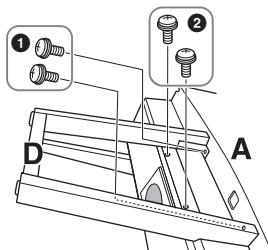
- 3 EをDに固定します。

EをDに短いネジ(5×18 mm) 2本で固定します。



- 4 DをAに固定します。

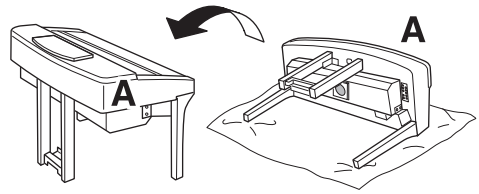
- ① DをA底面側に短いネジ(5×18 mm) 2本で固定します。



- ② DをAのスピーカーボックスに短いネジ(5×18 mm) 2本で固定します。

ネジの位置が合わない場合は、ほかのネジをゆるめて、Dの位置を調整してください。

- 5 Aを起こします。

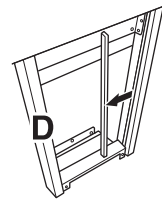


⚠ 注意

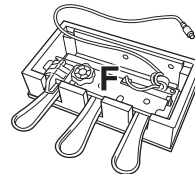
- 指をはさんだりしないようご注意ください。
- 本体を起こすときは、キーカバーを持たないでください。

- 6 Fを固定します。

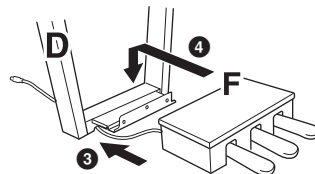
- ① Dのカバーを外します。



- ② ペダルコードをほどきます。

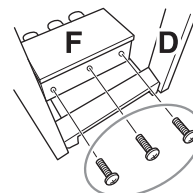


- ③ ペダルコードをDの下から本体の後ろ側へ出します。

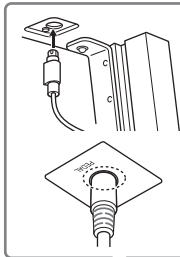


- ④ FをDの金具の上ののせます。

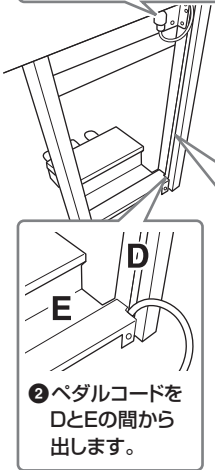
- ⑤ FをDに細いネジ(4×20 mm) 3本で固定します。



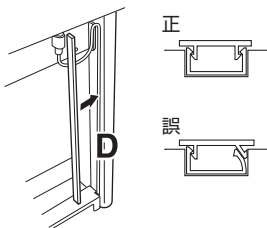
7 ペダルコードを接続します。



- ① ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込みます。
 プラグの矢印(↑)のある面が前(鍵盤側)になる向きで差し込みます。プラグがうまく入らない場合は、無理に差し込まないで、プラグの向きをもう1度確認してから差し込みます。
 プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。

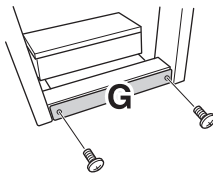


- ② ペダルコードをDとEの間から出します。

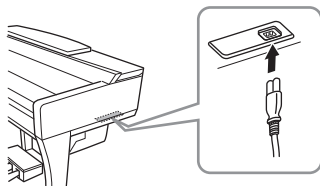


- ③ Dの溝にペダルコードを入れ、カバーを正しくはめます。

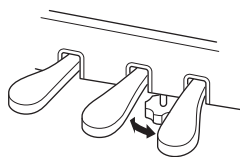
- ④ Gをカバー用ネジ(4 x 10 mm) 2本で固定します。



8 電源コードのプラグを差し込みます。

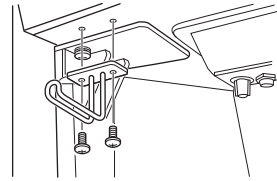


9 アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



10 ヘッドフォンハンガーを固定します。

細いネジ(4 x 10mm) 2本で、図のように取り付けます。

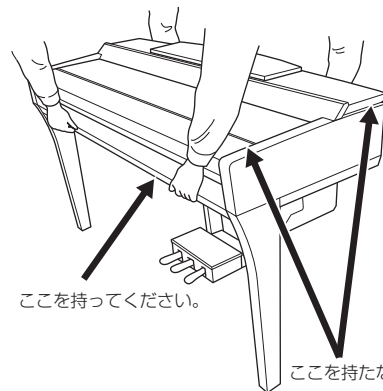


組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか？
→ クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバがぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？

⚠ 注意

本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。天板やキーカバーは持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



ここを持ってください。

ここを持たないでください。

引っ越しの際の運搬方法

通常の荷物と一緒に運べます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に解体した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

⚠ 注意

使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

CVP-605の組み立て方

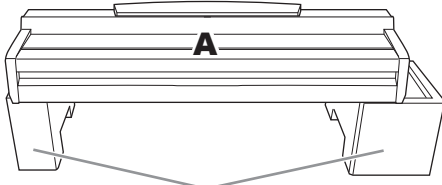
⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

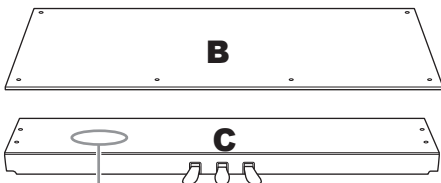
ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



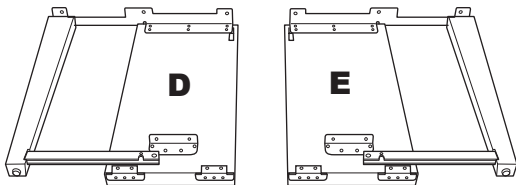
すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



A底面にあるスピーカーボックスの破損を防ぐため、Aはスチロールパッドの上に置いてください。また、スチロールパッドはスピーカーボックスを避けて配置してください。



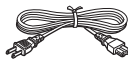
裏側にペダルコードが束ねてあります。



- 長いネジ(6×20mm): 4本
- 短いネジ(6×16mm): 6本
- 細いネジ(4×12mm): 2本
- 先のとがったネジ(4×20mm): 4本



コードホルダー: 2個



電源コード



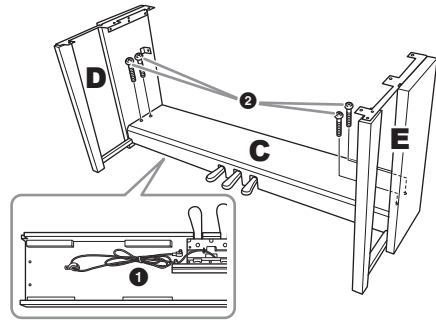
ヘッドフォンハンガー



細いネジ(4×10mm): 2本

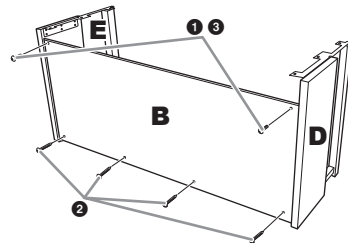
1 DとEをCに固定します。

- ① ペダルコードをほどきます。
外したビニールひもは、手順5で使用します。
- ② 長いネジ(6×20mm) 4本できつく締め固定します。



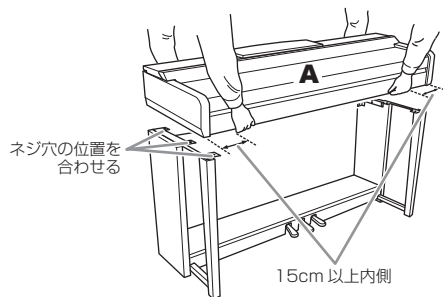
2 Bを固定します。

- ① Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12mm) 2本で仮留めします。
- ② 下側を先のとがったネジ(4×20mm) 4本で締め固定します。
- ③ 仮留めした上側のネジ(手順2-①)をきつく締め直します。



3 Aを載せます。

必ず本体底面の端から15cm以上内側を持って載せてください。

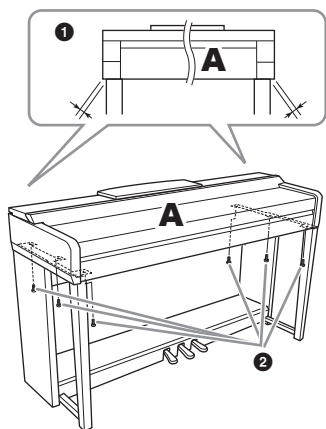


⚠ 注意

- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- 指定した位置以外を持たないでください。

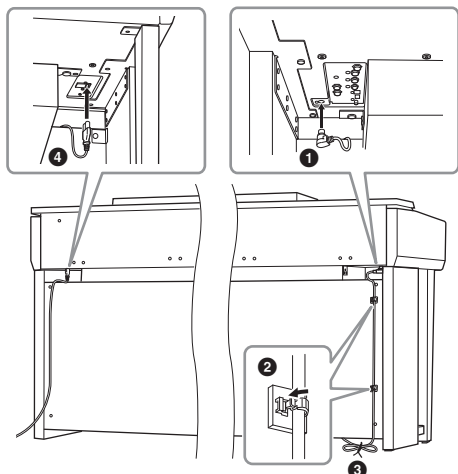
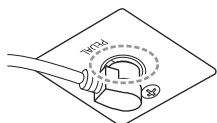
4 Aを固定します。

- 1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整します。
- 2 前面から、短いネジ(6×16mm) 6本で固定します。

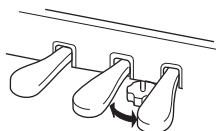


5 ペダルコードと電源コードを接続します。

- 1 ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込みます。
プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。
- 2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。
- 3 ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。
- 4 電源コードのプラグを差し込みます。

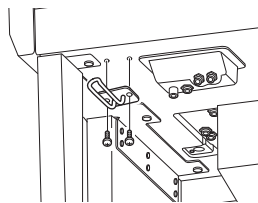


6 アジャスターを回して、床にぴったりつけます。



7 ヘッドフォンハンガーを固定します。

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けます。



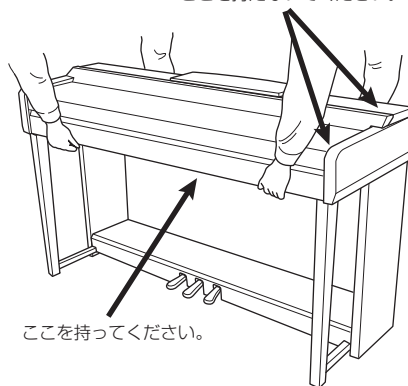
組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか？
→ クラビノーバを移動してください。
- クラビノーバがぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？

⚠ 注意

本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。天板やキーカバーは持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

ここを持たないでください。



ここを持ってください。

引っ越しの際の運搬方法

通常の荷物と一緒に運べます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に解体した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

⚠ 注意

使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

困ったときは

全般	
電源スイッチをオンまたはオフにしたとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。必要に応じてオートパワーオフの設定を変更してください(16ページ)。
クラビノーバから雑音が出る。	クラビノーバの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。クラビノーバの近くでは携帯電話の電源を切ってください。
液晶画面に、点灯しない点や点灯したままの点がある。	TFTカラー液晶の特性です。故障/不良ではありません。
iPhone/iPadのアプリケーションと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドフォンから雑音(ノイズ)が出る。	iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、iPhone/iPadの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	クラビノーバの鍵盤機構が、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されているためです。ピアノの場合でも機構音は実際に出ています。異常ではありません。
鍵盤で弾く音にわずかな音質の違いがある。	楽器のサンプリングシステムによります。異常ではありません。
ループして(くり返して)鳴る音がある。	
ボイスによっては、高音になるほど雑音やビブラートが付いてしまう。	
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> 全体音量が下がっています。[音量]ダイヤルで音量を上げてください。 鍵盤パートが全パートオフになっています。ホーム画面で、[メイン]/[レイヤー]/[レフト]をオンにします(40ページ)。 各パートの音量が下がっています。音量バランス画面で各パートの音量を上げてください(36ページ)。 鳴らしたいチャンネルがオフになっています。オフになっているチャンネルをオンにしてください(80ページ)。 ヘッドフォンが接続されています。ヘッドフォンのプラグを抜いてください。 スピーカーがオフになっています。[メニュー]→[ユーティリティ]→[スピーカー /外部との接続]でスピーカーをオンにしてください。
音がひずんだり、雑音が混じっている。	<ul style="list-style-type: none"> 音量が上がり過ぎています。音量を下げてください。 エフェクトやフィルターの設定に起因して音がひずんだり雑音が混じったりすることがあります。ミキサー画面でエフェクトやフィルターの設定を確認してください。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	最大同時発音数(98ページ)を超えています。最大同時発音数を超えた場合は、前の音を消してあとの音を優先的に鳴らすしくみになっています。
鍵盤で弾く音が、ソングやスタイルの再生音に比べて小さい。	鍵盤パートの音量が下がっています。バランス画面で鍵盤パート(メイン/レイヤー/レフト)の音量を上げたり、ソングやスタイルの音量を下げたりして調節してください(36ページ)。
ファイル/フォルダー名が文字化けする。	言語設定を切り替えたためです。ファイル/フォルダー名に適した言語に切り替えてください(16ページ)。
ファイルが楽器本体に表示されません。	<ul style="list-style-type: none"> ファイルの拡張子(.MIDなど)が変更/削除されています。コンピューターで、ファイルの拡張子を付け直してください。 ファイル名が半角で50文字(拡張子を含む)を超えるデータは、この楽器で扱えません。ファイル名を半角50文字以下にしてください。

ボイス	
ボイスを選んでから鍵盤を弾いても、ボイスが変わらない。	ボイスを選んだパートと弾いている鍵盤パートが違っていています。選んだパートがオンになっているか、ホーム画面で確認してください。鍵盤パートについて詳しくは、40ページをご覧ください。
変に音が重なって聞こえる。鍵盤を押すたびに、わずかに音が異なって聞こえる。	メインとレイヤーパートがオンで、両パートに同じボイスが選ばれています。レイヤーパートをオフにするか、ボイスを変更してください。
高音域や低音域で演奏すると、ピッチがオクターブ単位でジャンプしてしまうボイスがある。	ピッチの限界に達するとピッチがシフトするボイスもあります。異常ではありません。

スタイル	
スタイル [スタート/ストップ] ボタンを押してもスタイルが始まらない。	リズムパートが入っていないスタイルです。[スタイル オン/オフ] ボタンをオンにしてコード鍵域を弾くと、スタイル(自動伴奏)が再生します。
スタイルがリズムしか再生されない(自動で伴奏が鳴らない)。	<ul style="list-style-type: none"> スタイルがオンになっていません。[スタイル オン/オフ] ボタンを押して、スタイルをオンにしてください。 スプリットポイントより右側の鍵盤を弾いています。スプリットポイントの左側のコード鍵域を弾いてください。
USBフラッシュメモリー内のスタイルを選択できない。	スタイルデータの容量が大きい(約120KB以上)と、楽器本体に読み込めず、選択できないことがあります。

ソング	
ソングを選択できない。	<ul style="list-style-type: none"> 言語設定を切り替えたためです。ファイル名に適した言語に切り替えてください(16ページ)。 ソングデータの容量が大きい(約300KB以上)と、楽器本体に読み込めず、選曲できないことがあります。 楽器が対応していないファイル形式です。再生できるファイル形式については、54ページをご覧ください。
ソングを再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ソングが終わった位置で停止しています。ソングコントロール[ストップ] ボタンを押してソングの再生位置を先頭に戻してから、再生してください。 プロテクトがかかったソングには、制限があるため、再生できないことがあります。詳しくは31ページをご覧ください。
(MIDI) ソングの再生が途中で止まる。	ガイド機能がオンになっています(正しい鍵盤が弾かれるのを待っている状態です)。ガイド機能をオフにしてください(60ページ)。
(MIDI) [巻き戻し]/[早送り] ボタンを押して表示させる「ソング再生位置」画面で、小節番号が楽譜と異なる。	(ソングのテンポに関係なく)一定のテンポが設定されているミュージックデータを再生しているためです。
(MIDI) ソングの再生時、再生されないチャンネルがある。	そのチャンネルが再生オフになっています。オフになっているチャンネルを再生オンにしてください(80ページ)。
(MIDI) ガイド機能をオンにしてソングを再生しても、ガイドランプが光らない。	クラビノーバの鍵盤(88鍵)より高い/低い音は、ガイドランプが光りません。また、ガイド機能を使えるのは、MIDIソングのみです。オーディオソングでは使えません。
(MIDI) ガイドランプが、1~2オクターブ異なる鍵盤で光る。	選ばれているボイスによって、ガイドランプが、1~2オクターブ異なる鍵盤で光ることがあります。
(MIDI) テンポ、ビート、小節数、譜面が正しく表示されない。	ソングのテンポに関係なく一定のテンポが設定されているミュージックデータを再生した場合は、テンポ、ビート、小節数、譜面が正しく表示されません。

ソング	
USBメモリーが使用できないという旨のメッセージが表示され、録音が中断された。	<ul style="list-style-type: none"> 動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください(85ページ)。 USBフラッシュメモリーの空き容量が十分かどうかご確認ください(86ページ)。 録音や削除をくり返し行なったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合は、必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(86ページ)、録音し直してください。
ソングによって異なる音量で再生される。	MIDIソングとオーディオソングでは、音量が異なります。ソングを選んでから、バランス画面で音量バランスを設定してください(36ページ)。

マイク	
マイクの音が録音できない。	MIDI録音では、マイクの音は録音されません。オーディオソングとして録音してください(63ページ)。また[AUX OUT]端子に接続した外部オーディオ機器でも録音できます。
マイクの音にハーモニーが付く。	ボーカルハーモニーがオンになっています。ボーカルハーモニーをオフにしてください(69ページ)。
ボーカルハーモニーを使っているときに音がひずんだり雑音が生じたりする。	<p>マイクが声以外の音を拾っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> マイクに近づいて歌ってください。 単一指向性マイクを使ってください。 [音量]ダイヤルや音量バランス画面(36ページ)で音量を下げてください。
ボーカルハーモニーをオンにしてもハーモニーが付かない。	<p>コードモードでは、コード情報が検出されないとハーモニーが付きません。以下のいずれかを行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [スタイルオン/オフ]ボタンをオンにしてスタイルを再生し、コード鍵域でコードを弾いてください。 レフトパートをオンにして左手鍵域でコードを弾いてください。 コードデータが入ったソングを再生してください。 [メニュー] → [スタイル設定] → [設定] → [ストップACMP]で「無効」以外を選んでください。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

ミキサー	
ミキサーでスタイルやソングのリズムボイス(ドラムキットなど)を変更したら、サウンドがおかしくなった。	スタイルやソングのリズムボイス(ドラムキットなど)を変更すると、ドラムボイスに関する細かい設定がリセットされてしまい、もう一度元のリズムボイスに戻しても元どりのサウンドに戻らない場合があります。ソングの場合は、ソングを先頭に戻す、スタイルの場合はスタイルを選び直す元音に戻ります。

ペダル / AUX PEDAL	
ペダルのダンパー機能、ソステヌート機能、ソフト機能が効かない。	<ul style="list-style-type: none"> ペダルコードのプラグが本体に差し込まれていません。ペダルコードのプラグを本体に確実に差し込んでください(84、92、94ページ)。 ペダルに別の機能が割り当てられています。それぞれのペダルにサステイン、ソステヌート、ソフトを割り当ててください(33ページ)。
[AUX PEDAL]端子に接続したフットスイッチの、オンとオフが逆になる	電源を切り、フットスイッチから足を離れた状態で電源を入れ直してください。または、[メニュー] → [アサインابل] → [ペダル]で極性を切り替えてください。

AUX IN 端子	
[AUX IN]端子から入力した音が途切れる。	<p>[AUX IN]端子に接続した外部機器の音量(出力レベル)が小さいためです。[AUX IN]端子に接続した機器側の音量(出力レベル)を上げてください。楽器本体から出す音量の調節は、[音量]ダイヤルで行なってください。</p> <p>また、ノイズゲート機能により、小さい音はカットされる場合があるので、AUX Inノイズゲートの設定をオフにしてください(82ページ)。</p>

仕様

		CVP-609	CVP-605	
サイズ/質量	幅 [つや出し仕上げのモデルの場合]	1,426mm [1,429mm]	1,420mm [1,422mm]	
	高さ [つや出し仕上げのモデルの場合]	譜面立てを倒した場合	868mm [872mm]	868mm [872mm]
		譜面立てを立てた場合	1,025mm [1,027mm]	1,025mm [1,027mm]
	奥行き [つや出し仕上げのモデルの場合]	譜面立てを倒した場合	612mm [612mm]	606mm [607mm]
		譜面立てを立てた場合	611mm [611mm]	581mm [581mm]
質量 [つや出し仕上げのモデルの場合]		81kg [84kg]	79kg [81kg]	
操作子	鍵盤	鍵盤数	88	
		鍵盤種	ナチュラルウッド(NW)鍵盤 象牙調仕上げ(白鍵に木材を使用)	グレードハンマー 3 (GH3)鍵盤 象牙調仕上げ
		88鍵リニアグレードハンマー	○	—
		タッチ感度	ハード2、ハード1、ミディアム、ソフト1、ソフト2	
	ペダル	ペダル数	3	
		ハーフペダル	○	
		GPレスポンスダンパーペダル	○	—
		ペダル機能	サステイン、ソステヌート、ソフト、グライド、 ソングスタート/一時停止、スタイルスタート/ストップ、音量、その他	
	ディスプレイ	タイプ	ワイドVGA TFTカラーLCD	
		サイズ	8.5インチ (800×480ドット)	7インチ (800×480ドット)
		タッチパネル	○	
		譜面表示	○	
		歌詞表示	○	
		テキスト表示	○	
		言語	6言語(日、英、独、仏、西、伊)	
	パネル	言語	日本語	
	本体	鍵盤蓋	パネル一体型回転式	
譜面立て		○		
譜面止め		○		
音源/ボイス	音源	音源方式	リアルグランドエクスプレッション(RGE)	
		サステインサンプリング	○	
		キーオフサンプリング	○	
		ストリングレゾナンス	○	
		スムーズリリース	○	
		ダンパーレゾナンス	○	
	発音数	最大同時発音数	128+128	256
	プリセット	ボイス数	1,140+35ドラム/SFXキット+ 480XGボイス+GM2+ GS (GSソング再生用)	847+28ドラム/SFXキット+ 480XGボイス+GM2+ GS (GSソング再生用)

			CVP-609	CVP-605
音源/ボイス	プリセット	ボイスタイプ	96ナチュラルボイス、164スーパーアーティキュレーションボイス、30スーパーアーティキュレーション2ボイス、43メガボイス、31スイートボイス、80クールボイス、102ライブボイス、30オルガンフルートボイス	57ナチュラルボイス、62スーパーアーティキュレーションボイス、23メガボイス、27スイートボイス、67クールボイス、76ライブボイス、20オルガンフルートボイス
	カスタマイズ	ボイス編集	○	
	音源フォーマット		XG、GS (再生専用)、GM、GM2、XF	
効果	タイプ	リバーブ	44プリセット+3ユーザー	
		コーラス	106プリセット+3ユーザー	
		インサクションエフェクト	310プリセット+10ユーザー	297プリセット+10ユーザー
		バリエーションエフェクト	308プリセット+3ユーザー	295プリセット+3ユーザー
		マスターコンプレッサー	5プリセット+5ユーザー	-
		マスターEQ	5プリセット+2ユーザー	
		パートEQ	27パート	
		ボーカルハーモニー	VH2: 44プリセット+60ユーザー	VH1: 60プリセット+60ユーザー
	ファンクション	インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○	
		デュアル(レイヤー)	○	
伴奏スタイル	プリセット	スタイル数	566	420
		スタイルタイプ	468プロスタイル、55セッションスタイル、7フリープレイスタイル、36ピアニストスタイル	349プロスタイル、33セッションスタイル、2フリープレイスタイル、36ピアニストスタイル
		ファイルフォーマット	スタイルファイルフォーマットGE (ギターエディション)	
		フィンガリング	シングルフィンガー、フィンガード、フィンガードオンベース、マルチフィンガー、AIフィンガード、フルキーボード、AIフルキーボード	
		スタイルコントロール	イントロ×3、メイン×4、フィルイン×4、ブレイク、エンディング×3	
	カスタマイズ	スタイルクリエイター	○	
	その他特長	ミュージックファインダー(内蔵を含む最大レコード数)	2,500	
		OTS(ワンタッチセッティング)	各スタイルに4種類	
		スタイルレコメンダー	○	
	録音/再生(MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	118
録音		トラック数	16	
		データ容量	約300KB/曲	
対応フォーマット		録音	SMF (Format 0)	
	再生	SMF (Format 0 & 1)、ESEQ、XF		
録音/再生(オーディオソング)	録音時間		80分/曲(最長)	
	対応フォーマット	録音	.wav、.mp3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	
		再生	.wav、.mp3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	
	タイムストレッチ		○	
	ピッチシフト		○	
ボーカルキャンセル		○		

			CVP-609	CVP-605
ファンクション	レジストレーション メモリー	ボタン数	8	
		コントロール	レジストレーションシーケンス、フリーズ	
	レッスン/ガイド		フォローライツ、エニーキー、カラオキー、ユアテンポ	
		ガイドランプ	○	
		パフォーマンスアシスタント	○	
	デモ		○	
	全体設定	メトロノーム	○	
		テンポ	5~500、タップ	
		トランスポーズ	-12~0~+12	
		チューニング	414.8~440~466.8 Hz	
スケール(音律)		9タイプ		
その他	ピアノルーム	○		
メモリー / 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約6.7MB	約2.5MB
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー (市販)	
	接続端子	ヘッドフォン	×2	
		マイク	マイク/ライン入力、インプットボリューム	
		MIDI	IN/OUT/THRU	
		AUX IN	ステレオミニ端子	
		AUX OUT	L/L+R, R	
		AUX PEDAL	○	
		VIDEO OUT	○	
		RGB OUT	○	—
		USB TO DEVICE	○ (×2)	
		USB TO HOST	○	
音響	アンプ出力	(30W+30W)×2+80W	45W×2	
	スピーカー	20cm×1+16cm×2+5cm×2 +3cm (ドーム型)×2	16cm×2+5cm×2	
	アコースティックオプティマイザー	○		
定格電源	AC100V 50/60Hz			
消費電力	60W	50W		
付属品	取扱説明書(本書)、データリスト、保証書、ユーザー登録のご案内、電源コード、ヘッドフォン、イス(高さ調節付き)、USB無線LANアダプター			
別売品	ヘッドフォン	HPE-160		
	フットスイッチ	FC4、FC5		
	フットコントローラー	FC7		
	MIDIインターフェース	i-MX1		
	USB MIDIインターフェース	i-UX1		

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

索引

A

ABリピート.....	61
AIフィンガード.....	53
AIフルキーボード.....	53

E

EQ.....	79
---------	----

G

GPLレスポンスダンパーペダル.....	33
----------------------	----

I

iPad.....	86
iPhone.....	86

M

MIDI接続.....	87
MIDIソング.....	54
MIDI録音.....	63

O

OTS.....	49
OTSリンク.....	49

U

USBフラッシュメモリー.....	85
-------------------	----

ア

アサインابلボタン.....	26
-----------------	----

イ

一時停止.....	56
移動.....	29
イントロ.....	48

エ

エフェクト.....	79
エンディング.....	48

オ

オーディオ接続.....	82
オーディオソング.....	54
オーディオ変換.....	67
オーディオ録音.....	63
オートパワーオフ.....	15, 16
オーナー名.....	16
お気に入り.....	30
オルガンフルート.....	44
音量.....	14
音量バランス.....	36

カ

ガイド.....	60
歌詞.....	58
画面.....	20

キ

強制終了.....	15
-----------	----

ク

組み立て.....	90, 93
くり返し.....	61

ケ

言語.....	16
---------	----

コ

コーダル.....	69
コーラス.....	79
固定ペロシティー.....	35
コンピューター.....	87
コンプレッサー.....	79

サ

再生(スタイル).....	47
再生(ソング).....	54
削除.....	29

シ

ショートカット.....	25
初期化.....	37
シングルフィンガー.....	52
シンクロススタート(MIDIソング).....	57
シンクロススタート(スタイル).....	47
シンクロスストップ.....	47

ス

スーパーアーティキュレーションボイス.....	43
スタイル.....	45
スタイルエリア.....	20
スタイルスプリットポイント.....	42
スタイルレコメンダー.....	51
スプリットポイント.....	42

セ

接続.....	81
---------	----

ソ

速度.....	62
ソステヌートペダル.....	33
ソフトペダル.....	33
ソング.....	54
ソングエリア.....	20

タ

タイムストレッチ	62
タッチカーブ	35
タッチ感度	35
タッチパネル	23
ダンパーペダル	33

チ

チャンネル	65, 80
チューニング	36
著作権表示	16

テ

データダイアル	24
テキスト	59
デモ	11
電源	14
電源ランプ	14
テンポ	34, 62

ト

トーク	70
トランスポーズ	36

ナ

名前	28
----	----

ノ

ノイズゲート	82
--------	----

ハ

バージョン	16
ハーフペダル	33
バックアップ	37
早送り	56
パン	79
バンク	76

ヒ

ピアノリセット	42
ピアノルーム	38
ピアノロック	39
ピッチシフト	62

フ

ファイル選択画面	21
フィルター	79
フィンガード	53
フィンガードオンベース	53
フィンガリングタイプ	52
フォーマット(初期化)	86
フォルダー	28
フットコントローラー	84
フットスイッチ	84
譜面	57
譜面立て	17
フルキーボード	53

ブレイク	48
------	----

ヘ

ペダル	33, 84
ヘッドフォン	17

ホ

ボーカルキャンセル	62
ボーカルハーモニー	69
ホーム画面	20
ボイス	40
ボイスエリア	20
ボコーダー	69
ボコーダーモノ	69
保存	27

マ

マイク	68
巻き戻し	56
マルチフィンガー	52

ミ

ミキサー	78
ミュージックファインダー	71

メ

メイン(スタイル)	48
メインパート	40
メトロノーム	34
メニューエリア	20
メニュー画面	22, 88

モ

文字入力	32
モニター	83

リ

リバーブ	79
------	----

レ

レイヤーパート	40
レコード	72
レジストレーションエリア	20
レジストレーションメモリー	75
レフトスプリットポイント	42
レフトパート	40
レフトホールド	35

ロ

録音	63
----	----

ワ

ワンタッチセッティング	49
-------------	----

保証とアフターサービス

楽器および付属品のサービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

付属のUSB無線LANアダプターをこの楽器以外で使用した場合、保証およびサポートは対象外となります。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例
ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※全国どこからでも市内通話料金でかけいただけます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、
土曜日 9:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)
03-5762-2125
西日本 (沖縄/九州/中国/四国/近畿/北陸)
06-6465-0367

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

京浜トラクターミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024

大阪市此花区島屋6丁目2-82

ユニバーサル・シティ和幸ビル9F

FAX 06-6465-0374

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

● クラビノーバの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル  **0570-006-808**

※全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

上記番号でつながらない場合はTEL 053-460-5272

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00

土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

* 付属の USB 無線 LAN アダプターをこの楽器以外で使用した場合、サポートは対象外となります。

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社のホームページ

<http://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・鍵盤楽器サイト

<http://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハダウンロード

<http://download.yamaha.com/jp/>

ヤマハ 音楽データショップ

<http://www.music-eclub.com/musicdata/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

C.S.G., DMI Development Division
© 2012-2014 Yamaha Corporation

2014年8月 改訂 MWAP*.*-**E0
Printed in Vietnam

ZA83800